



名所方角和歌抄

宗祇法行

伊地知文庫  
文庫20  
168



抄歌



文庫20  
168

伊地知氏書冊

名所方角抄



舊和歌山  
徳川氏藏

大隅	備後	讚岐	河内	信濃	相模	尾張	山城
日向	安藝	伊豫	和泉	上野	安房	三河	近江
薩广	因防	土佐	播磨	下野	上総	遠江	美濃
筑前	長門	美作	紀伊	出羽	下総	駿河	伊勢
海後	豊前	播磨	淡路	陸奥	常陸	伊豆	志摩
肥前	豊後	備中	河波	大和	飛彈	甲斐	伊賀



越前	加賀	能登	越中	越後	伏波
因幡	伯耆	出雲	石見	隱岐	若狹
肥後	壹波	對馬	丹波	丹後	但馬

系名去名所

東介

白河 齋野 里 榎子 諺

系より白河の原の白河の齋野寺此奥之  
 仍寺此門前より西へまじり

<sup>河</sup>白河乃其れ柄とみ渡場入松  
 して飛乃其れ成針後形

岩倉 小野 山

南原寺の之白河此奥也岩倉山  
 西道西へ又系山小野と西へと西へ

同名の南へ大和國此名寄ゆらん  
栗田山

栗田山と云ふ所は是も之條通るの故に  
此一十律寺あり花頂院のありと云  
あり云はあらんを後り

山階里 宮さうく 郡の名

栗田山よりお坂へ行中名や此のまうく  
云所なり

音羽山 行 齧里 紅葉 後り

お坂の園よりと南ふあふるなり又清水

とも云や又むえの山は西面さうく此  
中程も音羽乃齧と云 同名を哥に  
せしむしてあふるをさうく後り

相坂れけむのあふるさうく  
音羽乃山は紅葉よりなり

花山

清水乃東西へ通照れ四徳又花頂院  
とも云りなり音花山ともむの山は後り  
又山階新れ内は嶺山と云さうく花山よ  
らしむ山よりふあふる岩倉山は名なり

近江 山崎 志保 之 國 中 後 山 之

大野 松村を流る

花山にありや 朝の光をくまの影に山階  
の巴より

栗栖野 小野池

醍醐のあやいさりの山の東東より 鹿  
ふりよりあやいさりの池に 朝の光をくまの影に  
志保の御宇 妙池と云く

藤井階

大のくはるこまの池に 東の二里餘に

山階の巴より

清水

み奈海よりくび寺より音羽の瀧より 志保の  
こ一丈計より石樋より 志保の  
流よりくび寺の音羽の池に 志保の  
瀧よりくび寺の音羽の池に 秋の風持政友  
の流に時や又清水山のあやいさりの西の  
ふりよる名ありの寺より 南より寺に中山と  
云一好まはるの書あり 志保の又志保山  
野よりくまの影に 志保の

ふいふい寺に清水池やじきよて七日  
玉条と京の人の名也

日吉社

山王社社や新日吉とて清水池も  
行幸とれたる指のふふ雲晴く  
元ふ日吉れと名一とてふ

稻荷山 巖坂 瀧みく 杖杭 後り

社の掛下もあつてけ糸の二日祝年  
日吉今徳おるこつりともさり

源平 山野 里

源平山とつらさり山はななり  
鶴橋後り 友れまとのふあふ年  
れ内く神あさりつらりさるさり  
の系れさる

辰巳介

伏見 山 里 沃 津

源平れ苗里沃津もや又友原れ伏  
見とてふ大和の伏見津とてふ



行回ハ依人より

本橋 山 里 園 行 くらり 馬

此橋より依り此の河と云本橋に里を  
こし小河に橋を依り依人れと云

笠取山

醍醐山の南より本橋に東や大山に

花久衣 紅葉 八月多きと依りり宇

治と云

白隠寺 笠 取 山 農 圃 此 寺 へ

中し〜と云れ神々〜と云り

宇治 山 里 河 橋

河の山なるも橋の東へ〜と云り

山吹の遊も〜と云り白く〜と云り又橋

の河橋只橋の弱れ橋も橋の橋 日取の

名所や又此家戸と云 所 宇治と

本橋の中より大橋 東へ〜と云り

いあ〜と云治の内や此家戸の寺あり

東より〜と云りや橋行より有れ名所

此河も〜と云治の河道は〜と云治

を白の湖の流や 東へ流るあり

宇治交中尾花より物くるまき後  
宇治乃花崗の秋也

行田 行京

後より東伏見の西之川條の海より  
已れりや里をあり

鳥羽山 田々里 舟津秋の山 日池

鳥羽の内れ石取や行田<sup>田</sup>と京より  
一里餘後のつゝも也

後河 後橋

つゝこゝし〜九 里 行

義豆野

上野 後 杜 湯 牧

後より南へ八幡よ近

八幡山 男山丸

岩清水と〜その山乃中程〜其鳩也

若と云も月南系と云もけ所なり相坂  
〜と岩清水後り生を放り祢丹鳩  
鷹と〜後り京より三里〜鳥羽より南  
乃名所ハ八幡のちらひ〜京なり男山  
女部を談

約野ノ里

後なる〜 流 後

東より西へ入る道也

本津 河原宿

此河の釣野と本津此里との間一里  
を分るなり本津と云ハ川乃南也

泉河

本津より近し康州山瓶原所へ  
ハ井所へ釣野より付方此若所何  
都より南へ奈良ハ此以今へ宇治  
奈良と云所。と云く釣野乃里河通  
分なり奈良と云は若所よりあり

東より西へ入る道ハ此里餘也

ハ此里也

本津 糸 紅葉 釣 山崎

岩田 小野 本 下道 此を後り

本と岩田ハ此野とハ釣より西へあり  
多分なり糸よりハ是も南也

東申介

本道宿松

山崎と云ハ舟在八幡の西や大和と云

〜〜時節をたゞを紙に  
思ひくそ屋敷に林を留乃社  
林多ひ山六丹後よを林多ひれ  
〜と語りハ大和之山崎の系より  
三里之け中一里中久我と云可きこ  
〜乃春の名取也

赤じも〜事もぬ人々於此この森  
あ〜れ紅桑たま〜いぬぬる〜  
水之淵山尾之里竹菊紅桑終  
本桑〜〜終〜山崎中道〜栗山〜りり

西のあ〜は〜

西分

極河 田舎

七條の海〜〜西河〜云船と語り極  
の里中〜高の橋川〜大橋中〜りり  
を語り

大原野

大原の道〜〜り〜〜か〜る〜り〜花れを  
町〜の〜ま〜〜〜勝れ橋あり〜水れ

大糸山と勝つ清水を

小塩山

大糸山に内よる糸より河原に春  
日東社に在る花月吾流の山  
岩倉と云ふ山寺を昔家と云ふ山に  
寄るより内よる大糸山に河原に  
之は西の山に寄る

柴富里 其行の流り

大糸より少わく河原に流る  
河原に流る糸より西よるは神の山と

まは申の方より大糸の山に流る  
糸の西よる山に流る河原に流る

松尾

神取や糸家より少や社乃の山に

衣子森

松尾と鼠山の中山に

夕は山に暮るの暮るを流る  
糸家流る衣子森に

海津河 里 後 梅子山 宿

松尾より入東やび川舟渡りて松尾  
の南へありて毒の糸より流る  
の糸とび毒えり流る

思ひよき梅の糸けり  
妹の袂に梅り 春そと家

大井河よりや 入江 紅葉流り

戸部瀬梅津 虎山よりとび河此  
より入流川や 飛鳥山より流る  
わたりてわたり山の東に梅下を  
流るわたり びて流をまると名を

きり流る 戸部瀬 大井 梅津 橋の  
なと次より流る して 東の渡河と云  
や大井と梅津より入河 針や飛鳥山  
鼠山より入流 西より東へ  
流るわたり 寺前より梅津に  
入流 寺に天龍寺 寺に松尾の林下  
月橋と云橋あり 天龍寺 飛鳥山 林下  
の橋より鼠山に林下 法橋寺と云  
之天龍寺の橋より 龍門と云名あり  
け寺の内より 寺より川と流る

又ゆくむお〜〜此山の麓寺

松の蔭りれ〜明 農月

あゝち、柴皆暖鐵の月く系り

ふり西ふあや

鼠山 峯 榊下 寺 花 紅葉 月 夜

を 候り 松 多 けり 小 山 や 系 ノ 系 の

海り あり

入 音 月 吹 づ 勢 部 鳥

西 中 鹿 の 山 や 一 と け

つ 道 と 散 花 水 う ち 衣 と ち して

吹ぬ鼠山や〜系り

海尾 山え

小倉の内へ鼠山ノ山や天孫寺ノと

雙文 池 琴

系り一里餘へげ世は法念副院ノと

げ寺中 池りりあ〜ひ池と云説を

木の橋あ〜と所もげありと外

名取多〜く在〜又内野ト云系

死人ト野ヲ内野ト云〜小野田

前へ東京西系ノ房ヲ〜人 能人

水野ノ首より

成実介

河大子山 峯 松ノ系 月の橋乃里

い多所ハあつた山の内ノ名ノ山ノ中ノ松系  
西ノ峯 磯ヨリハ水ノ系ヨリ 空里ナリ  
丹波ノ境ノ名ノ尾ノ里ヨリ 山  
南西ノ橋下ノ丹波ノ内ノ山ノ延<sup>延</sup>延<sup>延</sup>  
帝ノ尾ノ水ノ尾ノ帝ノ山ノ延<sup>延</sup>也

こたの目ノ山ノ尾ノ里ノ山ノ事

多ノ月ノ橋ノ山ノ尾ノ里ノ事

磯取ノ山ノ尾ノ里ノ事

雄山

磯取ヨリ 水ノ山ノ寺ヨリ 松ノ尾ノ山ノ事  
尾ノ里ノ山ノ尾ノ里ノ事  
尾ノ里ノ山ノ尾ノ里ノ事

尾ノ里ノ山ノ尾ノ里ノ事

尾ノ里ノ山ノ尾ノ里ノ事

尾ノ里ノ山



仁和寺此奥人多々ひの恩此水人流也  
初之川人たりくあつたあつたあつた

衣笠山

和の此水此府人其日此末社人是之仁  
和寺人若く後

位山

岩子之一條ヨリ水ノ通リ之衣笠ヨリ末  
申之熱之帝王此府ノト一後之熱之  
裏ノ事无名取と名高ノク也位山ノ  
勅宣十九卷ニ記載之

小野

古々大川裏此時ノ事无今ノ事也  
當之小野ノ水一條ヨリ水ノ通リ也  
社頭ヨリ也

ゆりゆり水ノ通リ此水此水此水  
此水此水此水此水此水此水  
此水此水此水此水此水此水  
此水此水此水此水此水此水

初目寺ハ清和地堂ノ社ノ西勝ノ  
名



系ヨリ十所也

小山現をへ系ヨリ成文之衣蓋をたけけ  
るし後り

小介

松野 地中 松卯花 女部也

室町通りへ系ヨリ十所也

賀茂 神也 河川系 羽川 神山

人あま山片長 森 羽人 小河 神山

次河 森 又うへへこれ神別雷此神

神祖神名をへ賀茂の系は妻也 系

十一月へ小忌衣後り

系也

今般事此神とも千本ヨリ少く

賀茂ヨリハ東申へ系ヨリ片長此

森へ文中ハ系ヨリ一里へゆくと

賀茂のヨリ一里へ賀茂ノ下と云なり

下ハ此祖の神くへ別雷此神く

系ヨリ賀茂のうへへ下ハ系此系

長坂細河

賀茂ヨリ少く若狭ノ境也 細河ヨリ

云々得る事也

小野

善後ノ境ノ東ヨリノ宮ノ人儀ヲ渡リ  
楸ノ林ノ少野ノ溪ヲ由テノ東ニ  
白ニシテノ入ルル水也又ノ人  
園ヲ北ニ月ノ毛ノリ也北トシテノ家  
知ルモ此ノ小野ノノリト道  
若シト 若シト 若シト 若シト 若シト  
小野ノ園ノ中ニモシト 若シト 若シト 若シト 若シト  
駒馬 山寺 奥

源氏中ノ小ノリトシテノ東ノリトシテノ  
小野ノ園ノ中ニモシト 若シト 若シト 若シト 若シト

云々

木ノ林ノ中ニモシト 若シト 若シト 若シト 若シト

貴船河 轉ルル西ノ 中ノ十ノ所ノ人  
大荒木社

系ト轉ルル中ノ方ノ市ノ東ノ野ト云々ト云々ト  
云々ト轉ルル中ノ方ノ市ノ東ノ野ト云々ト云々ト  
云々ト轉ルル中ノ方ノ市ノ東ノ野ト云々ト云々ト

ひくしてやねやよみうん源名路大  
たわ〜三の〜藤〜な〜

世宣介

妻之嫁

一條(り)一里村(人)若原(の)東(之)路(ノ)  
毛衣(を)く(後)

世宣山池(之)

妻之嫁(り)世宣(人)若原(ノ)東(之)路(ノ)

志(こ)を(は)世(家)山(乃)道(行)  
消(の)〜(り)も(は)若(を)世(之)嫁

大系山(里)

西(ゆ)も(も)月(名)乃(系)〜(り)三(里)之(河)路

清水(西)乃(大系)山(乃)道(行)

山(風)〜(り)若(れ)乃(系)〜(り)若(を)

庭(ノ)路(ノ)〜(り)大(ノ)〜(り)若(を)

清(井)水

乃(系)乃(乃)〜(り)若(を)

若(の)乃(乃)〜(り)若(を)〜(り)若(を)

せゐれありて名ありてり

又大系をくむ屋を此里志つてり

せり里志つてり此大系に轉るる少辰

言れ中町針人中方ハ山然てひえれ

山の林下横川の林下へ

小野 夕暮 ねらててきひ ちよき糸

とやうにけし 山をり水 少き

ねらてり 源氏ねらてり

君れけけり ねらてり

事なり

いふしていふよもいふ野山れ

うらりありありなり 農務

みよ山 糸

卯月中ノ午や賀辰の神事一箇

日や四日の前く此所を山世傳わされ

山とみけ山とやうに賀辰くけに好む

の里也ひえの西塔乃西の林下へ

横川

むえれ山の少く大系よりん東へるは

雲れ八きもりのねらてり

比叡山 大ひえ

大ひえの山 都北富士の山より小ひえの  
西塔ト横河との中間に又鶴立山等これ  
峯我立松丸より杖の洞と横川をひ  
ひえをそのの回うれを糸井口方此  
名前と書載り乃の言の介之西坂下  
云いこゝに杖の坂の半にけし中乃こゝ  
の勝とてまゝにけし山ハ糸井の 三雲也  
水海と山より東に山と社をい坂下  
とくも海にあり社は山とて山と

東塔西塔横川とてまゝに東塔と坂  
社乃の中所にけし糸井の月中社申  
唐崎の山より杖也次ノ日圓の杖屋の  
糸井にけし日廿ありひうをちり  
とゆや美と杖屋よりより杖を坂  
りより杖也唐崎と坂下の中より十  
八河に坂なり 辰巳の山

長野山 毘

毘えより山にけし杖ひとて後  
是とて杖

荒生山 坂里

長等よりい首人 是の山城國之浄土寺  
1の徳く人く 桑が一里村 山白河ノ  
色之世倍く 是れ昔と云より  
雲の平の川より 一の里の如常花  
くらあー くらよりのひをよりらふ  
林赤色 小蛇 治虫をく 換り  
一系れ 色より 八 東坂平 矢急人  
君代と 祈あいのり 此林赤色  
まをり 少年 此ををり くら年

吉田村

林前く 是日そく くらく 林赤色  
の西く 是も 一系の 色より 矢急人  
思縁

吉田村 南く 信務寺 此水く 一系 直人  
矢急人 東く 八 入 東 朱雀 崔 此河 斗  
子 是 在 此 也 相 あり 候

下 賢 斎 并 多 田 次

一系より 八 少 寛 此 也 水 畠 此 人

浄土法河



賀茂ノ宮中一月此後ハハ流アリ

水雲地神

賀茂地神ノ水留ノ所ノ一系系流  
ヨリ多ク實ノ音也 乃ラ所ノ人ト賀茂  
系川系也

雲地神

雲地神ノ事ハ梶井後ト一系  
大ニナリ少クハ中ノ一河ハ流ル  
水也ト水也ノ事也  
紅葉ト云ハ此種ノ時多ク

これヲ流人ト云フ

國中名取流多細ク 少用ト略ク  
又中流名取ト云フ

流中合

中河

水留ノ一系系流ノ流也 今ハ河  
ノナリ 系流河ノナリ 流也 音ナリ  
事ト云フ

流中井

流中井ノ事ト云フ 中河ノ事ト云フ

西河院之北、中庭より井へ  
或ハ山ノ井玉井、天橋之あり云々  
系中より、物宣十九卷より、  
あり

垣竈 ト云

六条宮舎より、首融大石、北四院之北  
泉水、毎日潮之石、行入り、せき  
海中、北奥石を、敷、これ、を、海と、  
け、池、今、大、形、代、り、く、河、東、院、と、是、を  
、也、係、氏、物、語、多、し、の、院、と、云、ハ  
け、院、也、六、条、院、奥、列、ら、り、之、不、  
と、極、う、れ、終、り、

當大堰

少正親所、南ハ出、北門、東ハ宮、西ハ西、  
院、也、宮、下、所、ハ、是、門、ハ、東、河、院、西、  
南、ハ、ハ、門、ハ、大、門、裡、時、ハ、宮、方、  
今、ハ、之、宮、斗、ハ、  
清涼殿、同、前、紫、宸、殿、西、  
多、殿、ノ、中、乃、  
階、ハ、  
ハ、紫、宸、殿、西、中

乃、まづく公卿に逢ふ會ふは、時を  
このやうくくくく其外、為人、鼻下  
殿ありし、しんじ階ノ事、元大遊、栴右  
遊、橋しんじし階ノ、庭前ノ東ハ  
栴西ハ橋ノ、枝殿ノむ、く、枝、れ、ら、く  
く小、正、梅、あ、や、け、し、と、紫、ノ、庭、と  
し、や、日、花、の、東、ノ、月、花、の、西、ノ、文、中、  
と、く、月、又、の、つ、と、連、哥、あり

日侍所

紫宸殿、辰、字、の、境、ハ、北、南、向、と

と紫、ノ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

又、藤、乃、戸、ハ、清、涼、殿、北、西、西、ノ、又、上、戸  
れ、菊、と、ら、ふ、ハ、け、し、取、く、あ、ふ、明、取、所  
く、く、秋、ノ、梅、つ、不、茂、は、不、是、相  
つ、不、繁、子、つ、不、く、秋、ノ、是、ハ、林、中、也  
い、や、し、つ、の、行、と、も、林、中、ノ、中、ハ、桂、と、く

白馬宮の會

正月七日ノ、朝、く、く、く、く、く、く、く、  
殿、ノ、紫、宸、殿、(急、蓋、を、敷、後、く、く、  
長、階、と、い、ふ、く、く、紫、宸、殿、ノ、く、く、

倉とて此座あり。さら前より入る政  
や終りしつゝも書る事しるく白る事  
去あをると後くふ代に扱あまの事  
通けもた今ふ少敷く日花つり  
川入く橋橋と此階の中なる川  
海く意宿殿ノ西ノ書戸ノてと然  
此後まうく月むつ川切の儀式儀は  
まをうり白る事書あをると後也

踏寄節會

正月十六日の夜に儀成多分七日の夜

れ〜あ〜ま〜〜ことと云事今夜  
ま〜〜〜此綿ま〜〜ま〜〜時々年

中行事也

神即位 大書會ま〜〜事ハ官廳  
て此事ハ夜内野くま日と大炊  
此のれ乃やあふま〜〜事ハ御  
事所ま〜〜〜

神祇官

何く東ハ大書西ハ橋通少ハ大炊  
もハ冷泉ハ天照太神を始く此神座之

心勅使改<sup>り</sup>

神泉苑

池<sup>あり</sup>は<sup>く</sup>是<sup>の</sup>二<sup>条</sup>大<sup>久</sup>人<sup>小</sup>二<sup>条</sup>有<sup>り</sup>之  
條<sup>は</sup>坊<sup>の</sup>東<sup>の</sup>大<sup>久</sup>西<sup>の</sup>五<sup>牛</sup>也<sup>池</sup>中<sup>の</sup>的  
有<sup>り</sup>森<sup>あり</sup>之<sup>を</sup>今<sup>も</sup>可<sup>なり</sup>と<sup>云</sup>ふ<sup>も</sup>  
勅<sup>宣</sup>に<sup>六</sup>今<sup>是</sup>の<sup>登</sup>水<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>也<sup>り</sup>

江列介

近<sup>江</sup>國<sup>の</sup>湖<sup>水</sup>有<sup>り</sup>少<sup>く</sup>廣<sup>く</sup>同<sup>名</sup>而<sup>東</sup>

西<sup>に</sup>は<sup>く</sup>有<sup>り</sup>少<sup>く</sup>も<sup>く</sup>海<sup>に</sup>出<sup>る</sup>

而<sup>東</sup>より<sup>東</sup>へ<sup>先</sup>に<sup>相</sup>坂<sup>山</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>所</sup>あり

西<sup>に</sup>は<sup>く</sup>介

関水河

相<sup>坂</sup>山<sup>中</sup>也<sup>関</sup>水<sup>河</sup>は<sup>此</sup>所<sup>に</sup>有<sup>り</sup>

関<sup>川</sup>も<sup>云</sup>ふ<sup>所</sup>に<sup>有</sup>り<sup>関</sup>前<sup>の</sup>関<sup>寺</sup>也

と<sup>云</sup>ふ<sup>所</sup>に<sup>有</sup>り<sup>関</sup>前<sup>の</sup>関<sup>寺</sup>也

相<sup>坂</sup>山<sup>関</sup>山<sup>関</sup>山<sup>山</sup> 平<sup>向</sup>山<sup>松</sup>村

飛<sup>鳥</sup>堂<sup>東</sup>路<sup>高</sup>古<sup>路</sup> 松<sup>本</sup>

の<sup>中</sup>に<sup>有</sup>り<sup>関</sup>前<sup>の</sup>関<sup>寺</sup>也

江列

相系れ約 ち月れ約をく後り

折あ溪

湖のちや園より十町計東へ今  
溪の裏と云わく折あ谷の西を江  
の介る山つのも通を往く

栗津 岡野 世尔森 ひより 萩を

讀り折あ并へ

鑿曲 長橋古 唐橋久栗津の南へ橋東

東へ一色下り

石山 観音堂ハ南向也

水海道礪田分南へけ山の南中あて及  
海も河流く石山、東へ流よりけ流末  
橋谷へ流く宇治へあはく系り、西  
へ皆田と石山、中より十町計、礪田は橋  
より東へ世流乃宿也

のくしはく、河へ流えん、衣れ

多えとま、河く石山、のい

大津 里みく

折あ溪より水や月十町計へ東へ海西  
山くよりあひく

法井寺

大津北里のあへくはこころに因縁と  
号ひ井れあふてあるれは湯りさうし  
こころいし

徳賢 郡 石 飛雲 山 浦津 唐崎

大橋田 山越こころお坂より水あき越比  
乃こころ愛れ山か海もあき寺こころ  
山越ノ東ノ禁ノ堂滅寺こころ  
那ノ名ノ志賢寺こころ京より坂中  
道越こころ山回りからる長き山

ヲこころやひ山乃東西の志賢人  
そく堂のこころいしこころ首志賢  
寺の聖人伝説も四徳人能く為坂  
平の志賢の内ノ井ノ社法府なり  
八し女乃あまふとれあしこころ  
七代屋一乃の文井一井り  
あまこころあし志賢石乃あま  
あまこころあまれその  
唐崎 七雲 法寺 誓言 秘 三橋の  
井 坂まこころあま

真野

打却り垣切ハ中間ノ里也海ノ  
里尾花鶴溪坂市ナリ少人

唐崎ヤルナリ山ノあり福と  
とて浪家とナリ秋ノ時

堅田浦 沖

志村ノきま水沖ノあり海ノ  
あり半ノてナリ浦ノ川細ナ  
月ノたまぬノ溪ノ村

此山 志振部花月 名時雨

福ノ一ノ福とナリ一ノ里ハ水也ナリ

ヤ十二里也 東ナリ 丹ノありナリ

又西ノ山ノ麓ノ海ノ行ニ白髪ノ村

此山也 此里ナリ 少松と云名ナリ

風ノてニナリ 振ノ福とナリ

長町由ナリ 神ノ月ノ村

高橋

船ノ名也 山川ニあり 松山ニあり  
一ノ山ナリ 少人

志村



志賀郡より流るる尋下  
うりあつて左面白く記名  
ありしりちねむ村に里

竹生橋

比良の奥へ竹生橋とを其外橋  
あまのこ

竹生橋

比良の海と此のこへは海と云く水海  
あつらんふりあつた橋とす  
りたてし津みはち年竹生橋

流るる下新のそ橋垣

よるれ海よりうれまじし女子。

天乃く衣りしはらんや

あつた海もあつて糸海と云水海に  
名より余はれ海名わくおれ部と  
志賀郡と云りあつた津と云行  
王座にわく越前へ行りあつた  
山と云名所れもの海と云く垣津を  
越前れ津や作あつたの替り

志賀の山并越く色しこの山

弱乃侍まうく妹さきも  
あつらふ言ふはさし成り  
ふはれ里あつてはつて

東進江合

信来城 山外山里 蓋

松本川を以て苗の獨作契より  
石山守治ゆえを以て田之河を  
こいりも也

田之河 里 あつてはつて 策 夜中  
石山 楽人 親を

山田後 矢橋後

二町より河を以て楽津  
白く赤あり業和してつて  
山田の後を以て矢橋乃後  
町計やある取の名十町や山田松矢  
橋ありより勢田に橋を業津より  
これ小野河より山田のありあり  
なり

野路 藤原

守山の實之音之鏡山麓之は海に居  
や中なる三里人山田の後よりての道り  
みればくせ路乃曲河みると川に  
しし曲りてのしる

あともまじりて路乃曲河麓ありて  
又る家流り月やくりまは  
之と山嶽松林 東の河

け山麓を少く流るり  
所初撰  
こころ多かりとれ山と先よけく

幾瀬とてりぬ原との行あり

栲の山

世俗より栲井に里と云一町ありて其處に  
丹波ありき

大なる海へぬきやのちありき

栲の山に雲の月あり

守山

山のなりし里に名く山麓の事ありて系  
うりし里くせ路乃曲河みると川に  
病人病の時由麻ると候あり

けはきく月をとりてくまら山に  
もよぶのうね風乃うき

守山守看とさくく屋と川を渡り  
志のふと云宿けつしを鏡山に禁  
なり

鏡山 池

云らうり水く守山を東く藤原のけし  
れ西禁く

月おろ

鏡山より西くおほれ物母と後り

光男森

くくれ宿うりせ富く町を後り

蒲ヶ野 藤ヶ野 宇和野

ひまのくまれあ山り経宿れ

あ年のまのひ代り村なり

まの路を新日まわれくうねれけし

ふりそ鳴る家あ守ぬれあふ

鳥籠山

大これ那く友と山とまや老男うり水  
つる屋川とみ山の禁なり新なり



作吹嶽

梓河糸より山やをわらふ那が道  
宮讀り

只のひありこころの嶽のまゐり  
こころをうらみえあしきなり

筑摩糸

又らく由河のまの信流や又勝野ノ糸  
水蓮の思ふにたふす園の糸を白くせん  
此のうたは筑摩の糸をくくとも事  
つとむる人の福のこころん

水蓮れ思れあこられ 菫

霜れありくや秋なきもあらん

美濃回介

不破山中山 園屋板をうら

作吹山の道に園をを

寂然物との園屋中隠れし

夏ももえそそそそそりひ色

野と雲

不破れ園よりこころを白くみ流れ中道  
とつとけりあしきうらみ後り

不破山を初めえもれし處に  
此より西へふ常のそく

因の谷川

此より一里東にけ宿の西より流  
乃山と

み流の西界は谷河もくく  
君よ流くんあ代まてり

雲井

小山に中山にちり宿と

善野原

雲井より西へ計一里と云  
あふこの宿は是も名取られは常  
所用く大我野と云名取れは常  
より雲井と云一里と云又雲井より  
南に養老に流と云名取れは常  
二里や伊勢名取と云一里と云  
り乃流ある山に禁く花と云  
と云と云と云

笠縫の里

あふこの河の坂と云宿分くせ川と

後りそ東へ杭瀬川ハ東舟渡分流多  
里赤坂宿より廿日ノ宿人大道を起  
河内舟人赤坂より杭瀬川首(四ヶ  
尾張(あまより)

旅人杖を杖打く〜如夕言ふ

舟より宿へ船蓋継りり

長橋

橋のたふぬ町村へ蓋継りり東へ玄  
井の宿に里計り〜は橋の月麓次へ

福寿山 峯

東舟渡へ舟橋より西里町へ〜舟  
舟へ舟渡の舟の舟を舟の舟へ舟へ  
舟へ舟の舟の舟の舟の舟へ

舟へ舟の舟の舟の舟の舟へ

寝是里

是は東舟渡より

舟へ舟の舟の舟の舟の舟へ

舟へ舟の舟の舟の舟の舟へ



強(引)く東山(引)く東海(引)く伊勢(引)く  
陸(引)書(引)地(引)京(引)角(引)と(引)下(引)去(引)乃(引)お  
上(引)り(引)去(引)給(引)ふ(引)り(引)此(引)に(引)此(引)に(引)尾(引)法(引)を  
書(引)る(引)れ(引)は(引)東(引)海(引)に(引)て(引)ん(引)あ(引)り  
伊(引)勢(引)伊(引)賀(引)と(引)申(引)入(引)り(引)也(引)後(引)説(引)能(引)く(引)て(引)る(引)  
助(引)り(引)

伊勢國分

津神取

京(引)ヨリ(引)辰(引)巳(引)方(引)に(引)能(引)く(引)下(引)勘(引)京(引)ヨリ(引)神(引)明  
系(引)文(引)道(引)ハ(引)お(引)坂(引)ヨリ(引)之(引)レ(引)此(引)嶽(引)の(引)首(引)と(引)申(引)り  
て(引)水(引)口(引)と(引)申(引)ふ(引)と(引)京(引)ヨリ(引)十二(引)里(引)ノ(引)於(引)麻(引)西  
棟(引)と(引)申(引)ふ(引)に(引)於(引)麻(引)を(引)越(引)く(引)と(引)申(引)ふ(引)坂(引)  
下(引)と(引)云(引)宿(引)と(引)申(引)ふ(引)と(引)京(引)ヨリ(引)十八(引)里(引)ノ(引)於(引)麻(引)ハ(引)伊  
勢(引)ノ(引)東(引)海(引)道(引)十(引)ヶ(引)也(引)也(引)伊(引)賀(引)ヨリ  
書(引)ん

於(引)麻(引)山(引) 岡(引)川(引) 八(引)十(引)瀬(引) 又(引)八(引)十(引)瀬(引)の(引)瀨(引)と(引)申(引)ふ  
琴(引)ノ(引)岡(引) 岩(引)坂(引)下(引)と(引)云(引)宿(引)と(引)申(引)ふ  
河(引)野(引) 志(引)山(引) 杉(引)京(引) 浦(引)海(引)と(引)申(引)ふ

於麻ヨリ六里人東也

作磯ノ海ノ人ノ後ノ水ノ所ノ時ノ方ノり

相ノもノくノまノぬノあノのノくノまノり

早河

山ノのノまノりノ 朝ノ字ノ此ノ里ノ海ノ邊ノ此ノ宿ノ日ノ水

川ノのノ直ノ流ノまノりノ酒ノをノ一

某ノ名ノよりノくノそノ来ノまノりノ早ノ河ノ此

朝ノ字ノのノまノぬノ日ノ水ノがノりノまノり

某ノ名ノとノまノりノ名ノ所ノ日ノ水ノのノ宿ノとノまノり

某ノ名ノのノ宿ノとノ海ノ邊ノくノまノりノあノのノ津ノが

少ノくノ日ノ水ノとノあノのノとノまノりノ三ノ里ノ人ノ玉ノ垣ノと

とノ里ノのノ名ノ取ノ人ノ并ノ流ノ尾ノ邊ノとノ系ノ交ノりノと

若ノけノ取ノとノ海ノ邊ノありノ畫ノとノ東ノ海ノ邊ノとノ山

くノあノのノ津ノがノ山ノ田ノとノてノ神ノ明ノ乃ノ以ノてノ取ノり

一ノ八ノ里ノ餘ノりノくノはノ中ノるノ一ノ八ノ山ノ一ノ品ノ砂

とノくノ好ノまノりノ人ノ家ノとノまノりノ度ノ合ノりノとノま

七ノ名ノ取ノ人ノ漢ノ菟ノとノまノりノ名ノ取ノ人

風ノをノみノ伊ノ摺ノれノらノ由ノ務ノ合ノりノ人

長ノりノのノ取ノまノりノ鳴ノりノり

竹ノのノま

女官此の府所や此所の未だ人林傍り  
山田公之室斗少く海迎人松田河宮  
津川と中宮を

宮河

山田ノ入江ノ世俗也一曰とも之山田  
の系ともり松傍り又河より少く在  
取をくく之河くく多福此人の傍り  
と傍りけ河くく松傍りけ河  
より少く之河くく山田此傍り  
又書社也まきまきく先布宮系

て後一也之へ系傍りけ河の傍り  
内宮外之を傍り又宮此乃一里傍り  
なり宮傍りけ河の傍り又外  
之の傍りけ河の傍りけ河の傍り  
り

林風やまきく一之を傍り

内外之を傍りけ河の傍り

天照篇

世俗ノ天ノ岩戸ノ事ハ布之也  
首ノ山ノ傍り山戸をくく林傍り

若戸も苗白くは神代山跡を  
山

神代山根れ下道踏ふ事

美度多れやさきしめの志

日高(系)宿の人六十餘川へ移る

け河の山よりあくるり少く海へけ

流よりみもすそ河をへく何をも

取く大河迎ふとも云

神代や中流に河乃いそれ文

こころは流の若そのやけい

信長

若代は流しそそ神代や

みもすそ川の流しそそ

也あも白くやあまの国

鳥井黒本く又もまは系と云

社流廿一年流くはり

なりけ後中流りそそ

あゆの系とすそあま

こころは流しそそ

流くりそそなり一書さ

の文松の文しそそ

月よこののちたきり物態れあ後れ  
まゝ〜物態のこみれま〜後り  
にまゝり一里しり水の海らくこ  
新らまの秋〜のま〜ぬ名〜り  
花あり〜月後のま  
津さひく長き世に成ゆ〜  
波よあま〜物態れま  
二見海

後山よりと〜但〜播戸〜  
ま〜〜海れ見〜

ま〜〜松乃〜

伊勢海付後海 麻生海河〜

あ〜〜伊勢海

海の浦〜

〜の海〜

〜の海〜

小野 古江 漆 流 石

海 迎 ぐ 左 雨 可 寺 ぐ

伊勢海付 善の善 温わかの山 野 小野

伊勢海付 善の善 温の山 野 小野

夕汐ふけて秋風を物く  
綿の浦に神一の浦

在る船りる人

あまの妻か柳根とさるりきり  
綿に浦に雲に物ふれ

いそ衣神一の浦のふりとい

そしに雲くく年をも魚のつじ

後河の志井

在る船りる人

後河水泡を神一の浦に

人のうまをせし朽や果不き  
もれり加れ旅の志くく  
いそ志いんし志井に水

志摩國分

さして右所なりと右所なりと  
伊勢よりハ世寅よある國に  
伊勢の國ハ東人

伊賀國

志摩 伊賀

大和と伊勢との中間に火道ありと  
ありて伊國に東海名の分は名所と  
書あり

雄其森

在所志すありしもの森立ありて

大和より伊勢に森乃時

名所とけりてはなむか

ありてはなむか

ありてはなむか

魚の漆

正字下尋又ハ左前ト云知為出ルル系  
より一處に下尋ありて東海名と云  
ありてはなむか伊勢分を法ハ  
常名あり少又は一まの海と云  
名所と云尾張の海一まと云一海  
ありてはなむかの宿ありてありと  
ありてはなむかの海一まとあり  
ありてはなむかの海一まとあり  
ありてはなむかの海一まとあり

尾張國介

丹波と名流のまゝと云ふ大河を  
川の中程を流して東を隈のま  
まり

河波平森 海里 三々

ト津と云里ノ由ニ森ハ之建保名号  
あり

名ノ由テああるその海にありとい  
らゆりらうくわさともいひ  
るらもれしと云はくあはれあは  
るよあるとい森一やまらん

丹波乃雲井一うりわるとい森と十里  
ありとい云河は是丹波の川次  
まごふト津乃乃乃里計之けあり  
よ名前なり又あまよ山一やま  
流れ山一あり

萱津原

ト津より一里計水人世俗よ流の  
宿と云く

東流れやけの東に銅流  
あさりりり人神のあは



熱田宮

南へ鳥井之宮より北へ  
西へ海へありて浮と云く屋敷と云け  
の宮の御をいふよ紀元八組の宮を  
あると云く御をいふなりけ西へ葦原の  
もよや河越葉山と云く社頂の西  
鳥井の御よりついで山を形ハ飛ぶ御り  
ふきと云く松村と云く飛ぶ御り  
南へ向りて長久の塚村と云く東宮  
岩戸と云く社なりともよあり

宿を北へ入りて宿の南へありて  
海傍より六ヶ所あり熱田と云く  
鳴海 海傍よりついで湊 早瀬 里  
と云く東宮の里 松風の里 ありて  
十町中方遠千倍の御をいふ御  
ありて清らりと云く東へ山を遠く  
ありて野と云くありて海三宮の里  
中の宮寺と云くありて夜中寺と云く  
八組の御をいふと云く三像の御  
ありて長久の塚村と云く北宮の

ふつとて後よ海士の家居を垣立  
ねくつとて早し縁をよむつとて  
とつ海士のつとて早し縁をよむつとて  
海邊へ其つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
風吹つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて

初巻一之巻縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて

つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて  
つとて海士つとて早し縁をよむつとて

田舎の窟とらふ世よひて昔の昔に  
て一里計東よ川をさきと名張く  
之河乃八橋の海より八里くけ申る  
うし多分名あな

三河國分

八橋川

飛の渡より八橋の宿より三所より  
西より少より東へ流せしむお川く橋を

一丈計く空角さる本れらふとんさつ  
海一より

矢矧 里 河を

い橋より八里くけ川く橋をさしれく  
是橋と云宿を極名所

とわせらふてり、 梓 弓

矢矧の川乃海に

矢矧山

東よ川をわ向、 里く矢矧をさし  
山のさしと交り里を二里計く

二村山 孝 園 夜 九 里

二村よりふおく一里餘り如七

八月園 二村山 六 郭 云

峯 清くさ鳴 群を 同く 凡

程をく 夜の 雲を 成し たり

二村山と 越く 其の せり

花 堂 山 花 浦 山 元

北海より 左に 分 明 尋 橋 将 修 り

徳 養 院 付 あり 是 邊 あり 寺

細く あり 用 之

行人 之 志 之 所 行 之 志 之 所 行

後り や 務 之 と まり あり 心

豊 行

世俗より 今 橋 と 云 宿 あり 水 久 野

な 之 あり 之 あり 之 何 の あり 山 上

え 今 橋 之 宿 あり 之 所 あり 行 之 あり

大 山 之 あり 林 中 あり 河 之 あり 之 あり 之 あり

後 合 あり

行人 之 あり 之 あり 之 あり 之 あり

の あり 後 之 あり 之 あり 之 あり

是世ハ名取ノ昔ニハ水ヲトモトシ  
云後ニシテ帝ノ御心アリト云後ハ  
ノ又ノノノ此海在取ノ光津  
此ありト云是ト云此也

遠江國介

高所山村系海濱真

此山自海ノ中乃系ノ此ト云  
坂也富土ノ此ト云坂ハ此名

是歌ニシテ此月系ト云坂下ノ清ノ  
世倍ト云ト云宿ニ白菅ノ係ノ  
見坂ノ富土ノ此ト云此ト云  
巖ニシテ此也

高所山妻ノ夕ノ此ト云此  
ノノノノ月波系ト云

橋下ハ白ノ此ノ係ト云一里ナリ橋下此  
少ノ水海ニ其流此河ノ橋下ノ水  
ノり此流ト云此ト云此  
此白菅此河ノ此ト云

溪名考

水海より北山にこの橋本は三里餘  
水く青い海に平より人々あり夕  
夕暮系河海土小艇ると後より之河と  
まの北山はくさく古の溪名と海  
道よせしき守り本坂とて之山  
の少く今も是橋本は今北海道あり  
世俗より川ると云宿を橋よりいふ里  
人月府府と云名不ふれと常  
ふ月府中と川ると北中なる天孫

川とて二船を渡る大河を人水と  
河（流も）く三里斗沖へ流て天孫  
瀬とて池田北流りて宿を府  
中より里ありて急川ゆくりといて宿  
ま〜

作中 山 名

西乃禁ハ新坂と云東北禁ハ新坂  
と云阿波の山ハ富士と云〜甲  
斐又根ハ〜

〜

ふしつりなつかはちよの中山  
中山只むりしつりしつりしつり  
あつりしつり

菊川

さよの山の東の麓に宿ありしつり  
少り菊川流す平なりはそしつり  
あり

ちりや野の登りたるありしつり

神川ぬ糸菊川の宿

又河なすの宿あり多しあつりしつり

あふ分月又細く月あり菊川の東  
約場系ありしつりあつりしつり  
大川あり菊川流す東の海流を  
底に石あり流水ありしつり  
流りもあつり難河くありしつり  
の中山ありしつりあつりしつり  
一里あり河乃西にありしつり  
と云宿あり

緩河圖介

鴻田より南へこれ宿と八里を道  
より長辺の里二里や茗の下道  
同前也

宇津山

只今のやれ云々此字とやと後之  
於人花紅葉 茗の下道 此山  
里寄合く山乃山而此山只人跡あり  
富士の東よきく山とて越と  
きは海り山と云々名取多規  
細に用之

石乃後り山と云々此山

花よ山と云々山越

只少事一茗此紅葉一書付く

於一山と云々乃山

本指森

富士の北は森より東よる山とて  
とも越川とて後河府とまりこ  
川とれりよ川と其水と六里斗水  
よじ森とて山より府まで  
八里と云々



さく倦ぬ梅樹人此秋の色  
刃と本指の森乃下露

清見沼 海寺 園又浪の園

水山有海人寺を山陰人寺より

富士のみく次海とより八見ゆ一寺の

南向く雲の計の前寺とみ所行東

へ行さく奥津乃里よおましく富士

見より月若子為約ゆると後より

人これ信と免よ清見沼

神の園と信波の海ひ海

又清見さより一里をく江尻と云宿

をく云保よりゆ入此川一里西より

をく船とて云保の河とておれ云

双れ系地く江尻地名可く

之保浦 海 松糸

あり東一里沖海中一町海松糸

のさくをく一海より舟より南江尻

舟はくさより清見さより云保の

南一里入海れとを富士も云保より

いさくといさくよりく舟より云保

道野之双ノ系比ノ入江ノ東ノ奥ノ  
城ノ作置れ海ノ山ノ名ノ如クトモ  
よりけ入江ノ内ノ名ノ如ク田子ノ名ノ如ク  
あぬれ家塩屋ノ名

清人海 東 舟 あり あり あり あり あり あり  
雲ノ如ク月ノ如ク 邦

波ノ如ク保ノ海ノ色ノ如ク  
清人海 東 舟 あり あり あり あり あり あり

真津里 河 海 津 之

あつらんふ山と云ふは清人よりあり

あつらんふ川はわたりあり海ノ流あり

清人ノ月ノ如ク色ノ如ク 真津里 河

海ノ新や海ノ如ク 真津里 河

あつらんふ山と云ふは清人よりあり

あつらんふ川はわたりあり海ノ流あり

あつらんふ川はわたりあり海ノ流あり

あつらんふ川はわたりあり海ノ流あり

富士山 之 根 嶽 寸 許 川 河 水

あつらんふ川はわたりあり海ノ流あり

北山 之 水 あり 田子 海 流 あり あり あり

若しとの渡りとして名前のよき人系  
一里計少しありて舟をて渡る河  
系をろくよ所く富士山東八州  
よりよみゆり也

富士山み称きて言ふは雲よ  
とそ野の系は秋風や吹

紅葉し系物しれ志く山さうれとや  
秋とやくたれ眩まき草

又富士の系はの橋たより、  
多れた天氣晴まはきくん

富士山といふはさく是とて  
南西の系はそよんてり  
後河の系は山とて  
のありの系はやくは  
ん系と行くはるの富士は  
あつてはるんそよんてり  
富士山の系は仍富士の系は  
ゆみゆり系根山より  
みよも日傍く女少よ  
ありの系は又

あつたふしに西のふらふらとくわ  
足さくむらさきもくさくみくわり又  
ぬ山よりくさくさくみゆか富士  
れ名は六月十日よりして其後海と  
うり百集

富士の指成はく舌をく六月れ  
しらす消てくさあ後海は

さ道は富士れ名はゆりも消るも育  
くの時あつたぬふあしうり富士れ鳴  
はくはくえくして<sup>頂上</sup>浮れい何れく

くはくくくくくくくくくくくく  
とぬりくくくくくくくくくくく  
ゆふ山くくくくくくくくくくく  
野山れ名はくくくくくくくくく  
精をくくくくくくくくくくく  
れ福よ<sup>頂上</sup>浮れくくくくくくく  
人七日精をくくくくくくく

田子海

富士の何より少くもくくくくく  
斗くくくくくくくくくくくく

白の浮嶋系傳れ海とて名く日か  
浦と名くより清く入るるり  
日の小名あり

おの風敷きよまれや田子の海  
海とてしふ火にたきつらん

おのりもけし風とたきもむに  
田子うそ入あまた約也

け平ちとて田子の海とてみえ  
ゆり又是の山あきか来りて

唐とれ山とあり 名とてきく

せんそ日ち(来海とあり)月  
針とてつせ給ひて名くりひい  
しこや(渡河)仲と名のい  
よそとくろし針とて今浮嶋系  
いあしこ子細き一草く昔様  
倉(か)海よりあきた山とのあ  
あし越とてし海く

浮嶋系

東西二千里く但ち所(一)里とて  
土の甚くあきとけ系とて名く水海く

東より西大海へ富士川より二里東  
と今井より西と云宿は是なり  
東海は六町一里人け宿は次と浮橋  
~~~~~

東海への道は、舟風ふ多

船は流す浮橋、なる程

浮橋より東と云く船津車返と云  
宿より西と云く西河は宿と云  
と云河は此口と云町は是まで  
駿河へあり十里斗へ抱へる

之橋は、一團乃こひあり

### 伊豆國介

之橋明林は存也

此地は水備ある人伊豆は存也  
~~~~~  
山と一山ありと云く東は二里餘の  
ふり小橋赤沢山と云け方角は北  
之橋より西と云海はありと陸路へ

作夏高根 小山 小池 大池 海  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

高根山

之池より廿一里入山中只夫もて此  
秋とて是山の乃よ水海を云は道  
乃及わつて此地系なり湖水少く不  
十河東西をこ東北行へ道々々々  
其ら々々後沢社檀所在なり西向く  
湖たもれ行へあり川北宿とて百

甲斐

家計 存まじ湖中富士の峰  
そり西へ入るなり 昭定 寂  
乃地なり  
とと縁路を我行へけるを  
伊豆乃水乃流るる家も  
けり山より蒸れ流るる  
うかろく河津の海へん  
高根山にお換れぬの内を  
乃乃道を書つて字あり矣立れ  
扱きて作るるなり

換と申る色をこれとて依りたる甲  
斐と書く作は駿河の小人あり  
乃森ゆりとの橋とて一作は此名  
取られともなるも不用

甲斐國分

白岩 山 里

小笠原遠見の牧植坂山野を  
ゆく牧乃名所なり細く山あり

いりいりひれ白根山

宮治毎下思ひよりや也

塩井山付柄おれ磯海山よんを 富士

いふみゆりく黒岩山ありあはれや

黒岩山あり

塩井山ありてれ候し鳴り

君、以代とて屋らふとて鳴

相模國分

岩根山ありとて色平川とて  
里よりありとて白根とて  
三崎よりありとて里あり 旗色とてあり



大磯小磯とて中乃め所なるも  
海の内く少の野なるも成実なり  
よんくもり大磯の水の野を臨てそ  
の里あり小田あり徳倉一平  
里くあり宿くまて地名取乃不書  
教くお換河とて大河なるも海中へ  
流ありゆり川あり東へ行くと家  
坂ありの坂とてまきくまきくや  
て徳倉寺とて徳倉村入口一寺と  
磯也

足柄山は坂園 行れり乃 八重山あり  
りあり 足柄山は少く 足柄海なる  
足柄山を海邊より  
足柄山乃 禁より行き  
一乗宿の行乃 下道  
除換お 若れ八重山なるも  
り末くは 足柄乃 園  
秋まて 冬 富士たより 冬  
もて 越え 足柄の 園

徳倉山 里凡

水車入寺なる所くある山西の海へ居り  
くそそ昔くそ居る所よき所なり  
台の字と居りて後り入口七日塔の  
巖窟を切通し一よりそむて居る

竊之長

世信よの云井の字と云り若又八幡  
なり社檀け系れ西東西向なり在  
所書れ下よりり 磯辺七里すに大なる  
井なる池多しゆれ溪といふ  
多井れ在るく竊之長總倉なる所

あり又早月夜と云はちいここの井  
れりし總倉なる所にありしと云はる  
倉山と名をとりてみくたはる所也  
右早月夜れ向しあると云はるなり  
いく大倉首曲り行總倉れ内をか  
まの六浦と云ふ所今所と云はる  
前や所こむこ入る所可也  
之双系地今所の右所よありと云  
浦の右所くけ所より所なり後と  
て安房れあり海なる總倉なり是

戊寅より月々あり

年毎に所産の思ふ程に盡れ来り

其のより多かるるに其れ止るあり

其の川に波は漸く川に漸く

其の細く其の多かるる

あれてししたりし其の海のみあ

るを其れ流を後ととる事

流浦 其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

又徳倉より戊寅海とよみ

云々其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

武蔵國

徳倉より奥州へりより

其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

其の川に波は漸く川に漸く

くく山をみえきりさ山をく  
ま名可有茂蔭根と云もけ緒又  
山くは山より西よみくく富吉の  
みえきり又甚川と云の緒又山より  
流あふ西より東へ流ゆ大河より  
行来しきくもむと云の緒茂蔭根と  
まれあよりあけ月け  
中よりくく回人衆人見渡す  
なり

茂蔭

西より東より東白北東より富吉  
みくもあより川を流すなり  
まきり流す東の緒と云の緒  
くく茂蔭根と云もけ緒又  
白鳥 鳥色 糸 淡糸 小麻 北東 志れ  
鳥 蔭 蔭  
茂蔭の、白鳥 鳥色 農草 多れ  
糸と鳥と長と云の緒  
流すくく山より西よみくく富吉の  
まれあよりあけ月け

小麻乃糸由六萩より流り  
入る里 小川と

世借よ入る此宿より船のぬくみ  
うこの里 糸田の里

ありたときこのむれ一をこのと  
入る此里より宿よりそりぬ家

其外停船お宿よぬくむらとき  
な家みうこのたのむれ一を  
流もけしや

角田河 河糸

下総の中より也都為流り入る河  
の流末也

水蓋此流より入る角田河  
伝や舟一人もこのむれ

今より前よ書しよと矢意なり  
多摩川里 堀金井

入るのむれ也

よはるやうとも垣根の船家よ  
つぬきよあむ川の里  
流とよりてしよとぬのり

城令此井此海... 氏意... 婿... 立野

牧乃在... 其外略く

安房國介

名... 總倉より西海... 北

北

道... 漢... 同名

東... 海... 由

日... 海

上総國介... 總倉... 安房

子教

海... 山

う... 海

多... 文

千葉

久... 海

子草此溪のわさるまふく

下総國分 穂倉より東にあり

勝麻浦 早田 三乃合 浦 日談抄

まろく

河麻此浦乃此波乃并つて

あまのうらみの悲しきやま

勝麻此浦乃まはれは

三乃の浦系長 鹿野

子系地 ありてしは

許我此溪

武蔵下総に中男と流る川

流るる川乃此浦に

君此のわさるまふく

書卷川

常陸國分

穂倉より西にあり 武蔵此と云

麻浦 浦 野 宮

最上麻浦に流るる

まろくやゆらん

常陸

常陸を流りし海のまのみやね  
まをふ代しつゝ乃ちや

けの神 春日神 志賀の神

神介身

筑波山 峯 折丸 小筑波丸

海辺の山へちき十一西親もく寺の

禁まう

今もとそふはくは山多れ

積りしそ久しうなれ

栞飛鳴や志賀ん流くまねの

おのしよのしよあまは白雲

水産能川

栞川をいそぐの神の山栞を小川

あり

流くまのりつらみまの川

垂そ流りて倒し成るまね

麓の山 浦 海 里

まのふもてふそくまを川く

ゆるる麓の山をけけ

おのふもまうそくまありま



夜の海におもひのこゝろ

東海に十八ヶ國にけしむるに  
糸より東あへの歌に丸書教く

飛浮圓介  
山あへ海辺を

云名取のあまをくまの  
とくみおし雲繩のあはれ  
唯て物より君とくそ思ふ

信濃圓介

木乃 津坂 踏 如字橋 丸本橋 麻衣

約月花後り

信濃を公木乃此の坂此 小藤原

自の神をくや露けり

とひとふ台に橋をくそと

あへぬ花の心 木乃此橋

おほき入山のくまにけり

木乃此の月の影をくそと

草系 山伏屋

くまのくまを

信濃

信濃多岐を此原由とせしむる  
こゝろにありと今たのむ  
山田守も亦此依成りて風吹  
卧傳し事終るくす  
文科 山月 竹ふし松山 多岐月  
里之

月やあぬ祿をいひては  
ふやまらるるを文科の山  
あやしくもくさるるこゝろ  
とこも山月もみき

月明山 翠の

月やあぬ祿をいひては  
いふこゝろにありては

溪山 嶽野 原里 煙

とせしむるを  
みき

飯沼 海 漆 津 附山 穂屋 月  
とこれ海のわたりとこれ通ひ路を  
林のまわりて終るくす  
尾花 しくもやれ光るる此行

三つ一里五秋此みよ山

七月廿百麻狩とて契しゆ所  
よりみ海へ中へ浦湯さく

相原 正月

五所牧五所より

赤じもくくおる風ありこれ秋物此  
之後り字所相原此やる也

上野 國介

馬場山

諸人能ますすよ此馬や折ねじ

馬場山のめ目由り此

作あらしまきく日けくさく中河此

世つえんはくく二所へ馬場

伊音保派野 飛るよあやめ 又三

あまきまを後り

いほのやいあめ浪乃いあして

あしき人を今一矢にむ

あしきやいあめ浪のむい

うきくくあや海へ

貴書河

水が通へ流る大河之下地はなぬ川  
こまふと流る合あり

下野國介

武蔵より下野の地は  
隣土へありは川其下流へ

伴吹山

遊白と同名あり

かゝる山は名はふりてはなぬ茶  
こゝも山とありありありと

室八鳩 煙 湯土焼火

之のちを管と云ふは成りしより  
室は八鳩は八日白は

地は地 藤原 整り 全

氏士は屋を修くくはなぬと  
あゝまたくはなすは藤原

水野國介

之の河 早河ありあり

まゝの河は早にそふ所はなぬ

しきつりるをよむ青柳

家保 あまの宮屋

さくらさくら海士れ宮屋ーさあさ  
海風をこきり鳴らして  
はらへや桜を流しうらまえて  
花のこころあはれ物也

陸奥國介

赤嶺山 山井 治八郎

あさひ山 新うらみおはらの井

清くく人そらあは

阿やめ茶川ももたもくを指れ

いくあさみの流しよ

信又山 里森 島 糸 浦

その世のこもくやむらつあは  
もよこり終るをきか

目よりほく思ひぬらふ浦さく

流よりあは音信も

後石鏡山 島 森 園 里

くらあーれーあさあは

いそこの山さへこそ時白あらん  
未暮山 海島は山あり  
暮れ初東の松山吹風  
霞まぬ浪の夜やらあらん  
らさうりふれ形見よ袖とさあつ  
未れ松山流らさうら  
左右の園 呼子る 山はさ  
東海の名とその園もさあ  
いささまれ越くまあらん  
白河園

北水色山へあふりあふり日た  
せささりさう流り  
紅葉ふれこれくさる井よ散さ  
名のささり白河の園  
衣の園 橋 鹿川  
松多よさふれ山風流てさ  
衣の園乃暮の月あり  
宮城野  
まゆやふれ下家り子祝  
あまらやさうあ家洞あそ

秋く美れ下葉の露より交りて  
鶉鳴く交野乃尔  
茂深乃去

阿武隈河 記本 無詠多と傍り  
行来よあふく海川れまうりさふ  
夕よの別をいふせまうや  
玉河 卯飛里 松風 世回れ玉河  
夕されハ汝風とて陰奥れ  
世回れ玉河 十巻 吟多り  
緒絶稿

ともしれく〜と見丸本〜した  
石文付 卒於乃浪 十行 菅原  
陰奥のいそ出ふきとそと〜ぬ  
本はく〜とよ意乃り〜と  
うらの〜れ十巻の〜と〜とよふ  
をを移す〜と〜と〜と移ん  
清む〜と〜と〜と陰奥れ  
い川〜と〜と意れ 碑  
去乃小橋 相海橋乃 阿由 千巻  
月 香 阿由

更ふ兼子心むしつと始はく  
人ま川橋のあゆれきく笑  
浪乃よりみゆかきしそそりわ  
宮原よふ系松くは橋  
春橋やとまは磯くあ浪は  
月乃むし子鳥鳴あり  
垣竈浦

らめの志不ゆえ ちうれ海を  
雲れ浪さうり乃さくはさく  
懸月東れく不ゆれうは

蘇之橋 山里 管月

いより船まきくく橋れり大よ  
久らくゆふ常なれは  
そ外そふのくゆはふ 秋田を  
云取地名取ま書勢とまり

大和園介

奈良

山越よりむく奈良(奈良坂むに當り  
山坂部八重橋 決不董後利)



東ノ山ヲ有る南ノ山ノ廣一西大寺ノ西  
の大寺ト云名取ノ柳陰ヲと諺リ  
猿澤池

奥福寺ノ前ヤ奈良ノ西ノ名取ノ  
多クノ柳ト云諺リ

春日山ノ野ノ森里ノ古

明神ノ末ノ南ノ首ノ門ノ首ノ  
君ノ代ハ春日ノみ福ノ朝日新  
行末ヲ云云此ノ事

春日ノ麻鶴ト号合ト云事也

列ノり麻鶴ノ明神ト云事也  
之ノ一ノ末ノ春日ノ山ノ首ノ  
浮雲ト云事也末社ト云事也  
途ノりノ早草ト云事也  
三笠山ノ森里ノ古  
と諺リハ此ノ事也

春日ノ山ノ首ノ末ノ春日ノ山ノ首ノ  
み福ノ朝日新ノ事也  
柏木ノ森 奈良ノ西ノ  
又柏木ノ山ノ首ノ末ノ春日ノ山ノ首ノ

羽買山 くり鳥 若草 雉子

死火野 野舟 日草

那保山 河 渡 路

みるまゝに摘れ葉栢紅葉して

作保の渡りの山を時ぬれ

辛向山 茶をく

布留山 湫 河 野 里 社 社

田中 石 橋 石 寺 茶 良 寺

白く 石 橋 花 花 六月 ぬ

名 細 石 橋

石と布留れたくくくくく

くくくくくくくくくくく

三橋山 志げ山 河 里 社 市

布留 くり鳥 山 河 里 社 市

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

橋 赤 木 秋 の 夕 草

初瀬山 小初瀬 河 里 社

小野寺 小野寺 河 里 社

紅葉 松 入 石 寺 社

流る事又ありしに初瀬と云海  
小瀬と云くらくの初瀬とつ  
く家瀬と云子細と云く初瀬乃里ハ  
山みまに禁人寺と云あり  
ハと云はなりなり河の東より西  
流れくりあり初瀬八丁所斗  
よ志と云と云名所の常と云ふ  
用之と云橋と初瀬との中より二里  
之橋より一里にあり初瀬より若  
野一七里と云橋初瀬山はた

吉野山つうくと云より自紀  
へはくして大山と大和の東より  
初瀬より伊勢路へも行く  
初瀬行くと云く此事の志と云  
多のあふせにあり流る  
けりと云く初瀬の右  
あり流れて初瀬の右  
ありて二本の橋と云と云  
と云右川の入りと云をみま  
淡と云と云源氏と云

あり

天香久山 只ひぐ山 香久山

ふらぬ山くし女林 初瀬より西

よあふ山く

耳山池くらり

香久山より西へ

四火山

右三山は東西へ并ぶ山はく河

ひくく山へ

神橋山

素良より紀作つれなる板し女

履衣

勢池 芦鴨 控里

名取の宿へ道少くみくくるを

みくく山は出りくけ宿とる紀

作つ所の三橋初瀬は東へみくく

立田葛城の西へみくくあり

吉井

那や三吉井は 初瀬より首へ山

界隈 紅葉 言 町 川 里

古白 花梅梅

白河此本末とみくそまくはじふ

吾等し山よ海ふらう

梅花咲と志うこやみ吾野れ

風うそまの言れ海らん

義山中山 中川 清舟山 鹿 各合山

名

青葉山 翠子元

昔れ道 柴 今の山嶽 翠玉り申る

里なり 奥の所前と十八所

行奥なりみゆげ訪てとまも

左記くありうく 奥の所前

とてある八所清く 其中乃花

梅子通く道のた右よ 並梅を

く花盛に雲とあり

吾野行水とてうく 毛梅とて

昔梅とてや花れ白浪

吾等し山の道少く 東より西

とてうく 山嶽 新 山嶽

くいさう 山嶽 坂 吾等行

東より西へ流るるくけ坂口を由流  
廻りて東に作ぬ外なりき世に  
糸乃よりなる云里に紀北河とく  
大河をけ吉野河に來たりけ坂口  
より舟船より一里餘り東へより  
て坊にめぐく象王堂とくく念  
舟井の坊に舟船はるるけ  
他りよとより象王堂の東向也

秋津井 川里 秋津井 舟乃也

女舟也 舟乃くみれ中野也

合あり

河原系 若菜 常 船北原 清三川

系 子乃 心こし

十津川

吉野に玉梅の傍り船北河 吉野河  
船の船は 吉野の唐の金山を富くとい  
伝家れりの山に呼子乃  
心をんや世といんや

若城 山家 寺 林 久未路 谷

河橋 柳 吉柳 舟乃くみれ中野

東ふれ野り

高天山 たかてんざん 河森 文色と

葛城寺 かつらぎ 西へ

ふもゆふの森の森れ月ぬり

雲より傳ふ時をうね

若海寺 山川界 森 里

皇居へ 長門よ若海浦と云名可る

三田山川 里

赤良より西なり三田越へり河

へ行ふる三田の系より南なりも東

百介 ぬみそよゆはなをれい夜

三田七山よりゆりつてくき

と室山 里

三田川よりゆりつて神可る

長市

ふる川の流水を 行来る并

うい名のい安の事いりいり字丸

いいせいりいりいりいりいり

神も飯山界川 割清田 里

森 三田子いりり若城 文色と

立圃より南へ何色も河内此山を  
境より山之葛城は立圃山流より  
小倉村南より小椋乃家と書  
極後り

菅原伏見 里 初瀬より西へあり

多由也

初瀬山夕越多れハ後亦也

伏見此里のあまきくもき

八塩山

初瀬より西へ山城も元日名

紅葉はくし語り

飛鳥川 例 初瀬里寺

北明石左下分明

此来也 萩 紅葉 猿人

右向所

吉志山 川 約

大和路より紀伊吉志山系より十

二里能く吉志山より西へ世と云て

紀伊吉志より 吉野 冬野と

云名所あり



河内國介大和の

大和の西より来た楽より

交野系禁地 天竺河 竹河

水行 専 音 あまこ 紅葉後

水之形 清孝八幡よりくるとれま

より道へ

後世より交野にゆふ持人の

あははるる屋形との専

天川系

東より西へ流せし下細く流せし

片地より久竹川もけはへん

より

渚森 文昌

淀川へ来く川より南へまをさる

六里より終麻毛渡り

生駒山 嶽

け山立田より一系よりをさる

平より八幡より南より高をた里を

妙山の群や

秋志地

しつ山に葉く

秋志にや外山の落葉のく

ゆふさうりおると秋風

稲葉里 若刈の里 ぬり川の入江

若くして流り

若刈稲葉の里よりぬり

ふやいらさうりー 流る滝ぬり

若刈園

越前より同名あり

和泉園介 河内よりあり

信太森 里 若 町 鳥 雷

け森の楠あり千枝の秋風あり

り

こしこの若葉に山のつるらん

志のこけ森の若るたもあり

吹井浦 海あり

紀伊丹後より同名あり

大さみ名もぬり川の海ありぬ

和泉

ふふふとあ秋の夜の日

栲津園介 系より未申の内より西

玉治也西と白海少の山く

新波那や海流入口堀江浦沼

津添後里郊一又淡寺

各井

秋の空よと生田の霧やとわじ

新波の芦よ風よあて

今更よ秋の平海と成わじ

新波乃寺の人忘貝

宇治 鏡 月 雪 梅 雲 芦

弘 亦守 秋 田 今 千鳥 扇

三和 漢 一 也 多 之

長柄橋 江

新波乃く栲着れ事一今より

渡邊橋

是も新波邊之天皇寺れ水一里く長

柄を以所より水なり渡河の来く

渡邊今八栲板村や昔れ事也

いふ所は徳地也一ノ皇子は在人多  
らりあつては皇子はあつた  
人系より十二里又林邊と云ふ所  
川尻大石のなると云ふ所也

芦屋里

蹴の芦屋丸をいふは蹴丸居垣天皇  
より成文

鳴尾 海 去 沖 茶香山 難波

一遊一

田裏 鶴 田 鶴 八月日

天王寺は西成矣此方より北海道  
海道より東へ源氏ふけく  
光源氏初より行吉へ訪はるる  
のこ行を給ふ事也

西津 妻系 妻付

さるはさるはさる

高作 侯

孝仁 小名在 小塚 芦原地 摺

平寺 何色も難波北郡の内なり

行吉 郡也 浦 倉 入石 里 松 小地

を里 小井丸 西の海に難波もき  
河波く溪谷の西の那津夫居西白なり  
相承るく経音の市に溪くふ色く  
わく道吉系南西の難波より経音  
一里餘りく経音よりつとこれ境に付  
つと一里よりあつた少なり難波の  
中よりく  
河よりくあつた相承の経音農  
海吹風く子も常也  
安信也

相承あつたのくま子に産人惣北に二五  
子くあつた市の溪河の中り  
長井源里 溪谷 源 少井丸  
今一溪谷小井丸あやの草  
いくの移やれ書とるなるこ  
溪谷 少井 子里 少井 経音より  
東くもあつた人  
猪名山 志ん山 半山野 糸川  
海 沖 河 漆 後 糸 糸  
少山首の海く那の産

芥川

いふれ那や少りる道(流もそり)  
わそよ流もそり来りり流く(入る家)  
海乃く大田の宿とまわりり十町  
行(東く大田と来りり)七里く  
茂庫山浦(海河海川少りり)  
直(流もり山)わく大田(其宿より)西  
いふれ那や  
音晴れいふれ那(行)こじ(これ海)  
月(そり)みつ(る宿)ま(る)ま(る)こ(し)

有馬山 お湯 浦

いふれ肉や少(る)を(る)よ(る)へ(る)の(る)い(る)の(る)  
奥(なり)み(は)れ(れ)境(く)世(俗)よ(湯)山(と)云  
可(死)来(り)十(里)く(西)れ(る)も(る)も(る)こ(し)  
い(る)れ(る)山(く)山(何)も(も)れ(る)来(り)  
少(る)よ(る)も(る)り  
福(く)ひ(ま)れ(る)い(る)れ(る)山(く)山(く)こ(し)  
流(く)流(く)少(る)れ(る)を(る)非(あ)ね  
小屋池  
宿(り)り少(る)れ(る)大(田)宿(り)り(あ)り

鳴尾北水人誓うる 相承 あやり

こころつゝい

徳島山 麻 紅葉

西乃美南の海少いもの船く来る十  
之里く玉細渡り

折か渡

水八山も海く西れまより十八町西  
小清水と云宿より西まもく小清水より  
梨赤かと未申く来るより岩庫  
下もは海廻りおの物や十三里く

近江中同名もさこれの麓に相承と云  
有勝尾山と云山寺も瀬川と云宿北之  
之やれあよりく

真西浦

水八山寺も舟や天の庄く遊互勝尾  
北山浦もや来るも折あると其方名所  
多く在り細く舟用船之繩  
海と云相承も

水月山 舟四山 月里

五月山 舟七月東 舟くまの

啼月あふ水又きんこ

秋ふら系其日の山此はひりふら  
ふのれ月を非ふるん

以新れ森

荏れ季系れ旧く社を天神此所  
町なりも白く海きふの海今なり

少山なり

牛田里 小村 川 流 漆 沖 森 山

少山も白く海く東西へをき可く並塚  
中東田作の田男れ塚をたは東西中

る一里く十八町つこれ中よりまひを

とめれ塚をたは築ふなり小村のけ塚

より少く塚の海迎へ海道よりもよこ

えふり森の共庫をくよここれ溪

と云あり少く東中山をくみこなり

今新取之川も森をく少くも流

きりり小川く牛田へ地もま川を

布川れ流るれなり

布川流

牛田れ森より少山へくよこめりなり



魚(流)道(舟)り

天乃川是や流れ未(な)し(舟)

テ(舟)り(舟)系(舟)布(舟)川の(舟)

漆山 川 倉庫(舟)り(舟)宿(舟)十八(舟)

り

漆山(舟)こ(舟)つ(舟)ら(舟)に(舟)吹(舟)堰(舟)風(舟)

ら(舟)流(舟)れ(舟)き(舟)し(舟)流(舟)や(舟)く(舟)死(舟)じ

あ(舟)ら(舟)の(舟)流(舟)れ(舟)

福田(舟)の(舟)流(舟)

倉庫(舟)り(舟)あ(舟)ら(舟)流(舟)れ(舟)宿(舟)の(舟)舟(舟)

倉庫(舟)り(舟)あ(舟)ら(舟)流(舟)れ(舟)宿(舟)の(舟)舟(舟)

山(舟)の(舟)

車(舟)舟(舟)し(舟)し(舟)流(舟)れ(舟)宿(舟)の(舟)舟(舟)

半(舟)流(舟)れ(舟)く(舟)夕(舟)や(舟)し(舟)ら(舟)

半(舟)流(舟)れ(舟)宿(舟)の(舟)舟(舟)と(舟)倉庫(舟)り(舟)

し(舟)し(舟)流(舟)れ(舟)

夢(舟)野(舟)

右(舟)れ(舟)あ(舟)ら(舟)り(舟)く(舟)倉庫(舟)り(舟)り(舟)水(舟)漆(舟)川(舟)舟(舟)

左(舟)れ(舟)あ(舟)ら(舟)り(舟)く(舟)あ(舟)ら(舟)り(舟)り(舟)り(舟)り(舟)

の(舟)子(舟)細(舟)舟(舟)

葛七池

吾庫より西十町計之漆川に宿り  
も西へを海より少く之為白土の  
道は多く在る所分明なるを以て

廣田溪

神取く吾庫の所計西へ流る溪  
神取れ溪也例乃溪とて之  
人のつと我と板ま一神垣能  
庭向れ溪一落かとて之  
いさふまゝとて一ゆふらり多れ也

以前れ溪より積ふ白雪

氷塚以前より一なる柴取れ

少中より多のやまのさし

いそりれく一氷塚れありよ以前  
の溪とて

悪浦ぬのり一なるやまのさし

より長例れ後より多し

いそりれく一なるやまのさし  
頂へ海海園とて

水とて海へ流れたり西へなる

そま色松

養木橋

海北

松の枝竹あふる垣

石北橋

源氏

地語の詞へ

次戸北浦乃あまたと後ふるはれ  
声沈のありいさふはれ月

白浪をゆくと夜よとさあ

明石を次戸をこれと

圓二の室を兵庫より一里あり西へ

ありあり兵庫まで十八里なりと

去る室よりも淡島よりと

海へもより海へ之室へ先源氏乃

任給ひ一雨ハ宿よりも海さつに

折ありりもふ雨あり宿と西へ

あまの雨よ岸れ多くも雨へ又次

二北園屋と云ハ今ハ橋戸の内と

ふり亭少ハ此次二ハ橋列地

松と梅を橋二の太く谷と云雨と

次二の中乃之室へ一の音と云雨を

わん海より雨ハ海より

次二の雨をみ海へをさ海多れと

奇みく河一と高下れ水  
是より山陽乃と流く一と去るは  
と色依乃百角而海乃千圓を  
先書流る也

紀伊國介

南より高野へ集りて和流なり  
紀伊ノ巨勢と云ふ所は廿一里餘  
巨勢野付 云々 云々 云々  
本此川

高野川其末西へ流進をよりと云  
宿れ所新少くは宿より高野へ  
之軍人不動坂へと云く云々云々  
又紀伊此國と云ふ所は紀伊海と云  
北者南く高野と云ふ所の中より  
紀伊の里と云ふ所へ又蟻と云  
所へ

高野山 云々 高野山寺と云々  
高野より三千里へ移河と云ふ所へ  
河内城也

紀伊

あつたよとて此れ山一縁りや

昔のりりもる明の月

松灯 其曉 雷 月 花多と傍り

金剛之昧院より奥の院へ一里之坂

院の角に玉川と云橋を奥の院の入

定取の面白なり又玉河此のよる人等

飲とて西行法師の世に任事す

比定道といふ大京此里に幾層其

十首謗くはし守此に

任事六取しそと云なり

かやき此れ長多形屋なり

長乃ふくやと云も只此の終

秋言ふこれ大京此里

友代 殊に

眺るやぬの地へ系より能時人の登

く西の海へ岩代和哥次とるに遊

友代や以坂をあてみ後せし

庭毛屋にぬ吹と此演

中良此の傍

友代よとて只中良此の傍とて

蹴元

垣下 玉 舟人 花渡り

栴咲山よりくまをさりけり

中より橋の明かりを

若浦

伴遊し同名を 和泉田舎吹と此渡

夕月夜 玉川橋 入江 三徳野

多し渡り

君より不役了し三徳の

流多れそむる若農 浦浪

吹と 渡 舟 昔 松 浪 花 月

都 千鳥 奇食人

去風乃吹と此く留千鳥

文な紅海のくれり啼なり

玉津渡

明神乃心座く交通唯くまは

とく藤と神神と

吹まよふ若此浦風かるまよ

玉津まよ神神のまよ

吹飯酒

和泉 丹後し同名を 天津風

の月 千鳥 平河 家あり

岸迎より塩橋くく天の風

物まの浦より平河の鳴る家

岩代 山 峯 思 小野 野中河

より代よりとて社あり

岩代乃溪去る元代後乃これ

あまのそと非のひとむきん

塩屋津 里 文 千鳥 言 去 上

子山座あり

高熊野 山 河 海 文 湯 相 初 山

瀧より海の中後り建保より

三熊野と云

屋より死じ吹くは海へ三熊野此

海より平河の平河の塩の橋

岩田川

熊野海迎へ

思ひ屋家神も如きなり岩田河

一後よりそとあり一海くは白流

千粒 嶽 花 紅葉あり

東屋此あり

秋去月時も晴まらあやれ  
暈りて月を胸と化けし

糸麻山

糸麻山くまの人もままた昔も  
ふれもくもたぐ子鳥ふ

音無川 山 遊 里

その山と云く遊山とまぐ徳母に  
作ノ事其果人

いふしていふく人そのふ  
とくわはるふ音無乃遊

此野山城乃小山野也入る事

妹背山 山 遊 山 二つよ二つまぐ  
川ハ音無川也

るくはくハ妹背山の中ハ有る

音無川のくや世の中  
妹く遊 像見の海

神鳩 磯乃浦 結乃海 子鳥の浦

う里字海契り 結乃海乃  
磯乃此浦乃くや子鳥乃

掃乃磯乃此浦乃川わる



月廿二日付... 阿波の浦

西の海... 淡路國介... 伯耆より七百里

淡路の浦... 追門流るる

若屋を淡路と... 多か... 朝野

野... 朝野... 野

を... 朝野... 野

那... 給... 阿波

あくららの水の海の色なり

小東子鳥物字の能浦よ書つて  
絵の。後よ月よふふぬ

河波園介

河波山 崎光 小崎光 崎の海 里光

あふ

まゆりし言わしよ人か河波なり  
しけくさくちと申さるる

讃波園介

杉山 海光

君の代よらるるくらしき喜山は

杉の葉よとせしるるを

泊磯 ありあり

細浦 後河 絵所山

つから山よりあふ 月影を

らるるをいふるを

伊予園介 ちかみより西へ君後よ

伊予此之根

鷗山有

風早也

鳴門河

尚未

交之

岩木鴻

伊予此海片よりいよの湯をこし

りふ

土佐國介

土佐の海 大湯 神水湯 名越山 養性

山陽道八ヶ國

丹波國介

丹波境之西申ノ方よりや名取もくは

丹波より播列ノ行こ尚未いふ人

久米文山 河有 塩釜山 猿衣をこ後

祭

丹波や〜あれ文山〜

我名〜そ〜丹代まで〜

宇野提森

思ふぬ〜

うゑての森は林毛物

播磨國分

丹波の世實人の道、海津の  
より西へ下るよきこの松を

雲水

けちりこも可次へは大意谷とれ中  
る人社を林をくむ向く雲水れとの  
さしひと讀みさりへ大意谷宿  
人松名所、明石松内へ

明石浦 浮 沖 外 浪 里 忌 忌 屋

松系 月 雲 子 鳥 人 丸 塚 と 云

大意谷より十町計西に去ると村立  
て四流今より

明石の久き人丸塚をみよ

今月、屋と丸塚

今を初り秋の菊、一、鳥居、此

あり、此是れ月よりの

大意谷より人丸塚を西へみよ

下り、ふら坂と云ふ、これ清水

此里村、此と云ふ、下り、菊の都へ

京 南 野 系 海 沖 村 中 此 流 云 在

あふちうく清水の宿をり浦添  
女郎花とれと宿をりみれく  
つるしやうも愛やふらや  
信吉れ島のまらけりあは  
ふらりあまのいし

隣のおまれとも信吉と平右衛門  
そり

右一をれ世中れ清水ぬりけしと  
おのれを初人せりあ

此清水れ流道海へ入るく小流之海入る  
け何と流りて行せ十町村小井中に池  
ありそ池よ流ありそ平右衛門あはれ山  
かをよみくちりあは浦ひとれ海と  
まのめあまをり清水れ細いそあはれ

簡摩 里 田園 河 海 市

あはれり西よりとらとあらんそあ  
の事く

晴ぬるよ川秋音を立あはれく  
し海れあはれ軍人

浦てやは志す海のちりきりなり  
おきて久きき我思ひのれ

室津 四海 入海 こそ是君 舟泊

高砂此并くく川乃宿より来

申也

高砂 山 峯 尾 之 海 濱 漆 松

栲 岩 霧 麻 萩

いさよよせよふりめと高砂れ

昔も物もやむとみかから舞下

高砂の妻れ縁くくやとさかへん

高砂れ霧のそよふり

高砂 宿 有

海道人のく川の宿の西や松の風

友茂こそと後り

高砂川

少りり菊人流道より少し書家と

云山寺あり

武士 章 陽門 磯元

高砂 高砂

高砂 高砂 二月二見流 作勝丹後国

惠光溪 杉原丸 杉原 溪

備前国分

備前国分

小橋 牛宮 車 舟 渡り 唐琴 泊  
波 舟より又 杉原 小橋の 渡り 道  
行 舟より又 杉原 小橋の 渡り 道

備前国分

吉備中山

吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中  
吉備中山 備前備中 備前備中 備前備中

備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前  
備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前 備前

備前

紀伊ノ志ノ同名ノ一

二口郷

坂倉此郷宿之海乃人昔後津美ハ  
西ノ山ニ少クモ多ク清リ

林白海山

大和丹後ノ同名ノ一山ニ又ノ和  
ノ山ナリ

長田山 塚ナリ

子年此ノ山ナリ一ノ山ニ又ノ和  
ノ山ナリ此ノ山ナリ

備後國介 昔備後國ノ府中ニ在リ

鞆浦 室野 鞆

尾乃ノ山ナリ一尾乃ノ山ニ在リ  
火ノ山ニ在リ

猿嶺ノ月ノ山ニ在リ

ノ山ノ山ニ在リ

萩山

口ナリ此ノ山ニ在リ

塞落橋

借後



府中より奥列よりも同名を在と  
総野より音より川より後よりや  
こやこれ橋とのひくく  
凡早浦

作られたる人利橋より東に  
介明毛乃の海より大橋より

安藝國介

小山首の海へ臨みもくまり瓦  
更なるわたり此里をこと行きて

瀬の大山と越く女日市と云  
名取より

巖橋

并々天社檀を皮橋に西面を  
信なりけ社中百半あり廻廊を  
大鳥井一より夕満の廻廊に  
らゆや并々天家より人  
神は此山を磯に為神石を  
心くくくありまふり  
くまきと号もや麻多り一

海あり中地は山ありて文之徳也  
中船して山臺は幸二月十七日取之船  
中管巻をく舞臺をくも

依泊水

左取ふ介の巖崎なり一に船を  
依泊水とく

右の港 物港

左取ふ介

周防國介

若木山

山あり海あり海あり山あり山あり  
山あり山あり山あり山あり山あり  
山あり山あり山あり山あり山あり  
山あり山あり山あり山あり山あり

周防なる山あり山あり山あり

山あり山あり山あり山あり

右の海あり

祝港 大港 下安海 勝馬海 宮

宝積 庵戸 世徳山あり山あり

乃園と云く

いふすやもささるる船もたや  
おと思ふことなり

室積の中普賢并れ堂々海  
中よりおぼふもやるもく教れ  
系也

長門園介

安武松系

世信よあんの船と云く長門園の心

長門の西の海なり

くまやふけくし中年と経て  
りともさぬあふの松系

ち浦嶋 室 文

府中や皇后の社檀行自定東西  
中遠に浮る奥浦平付とて二つ  
あり浦ノ二珠と被納とてみち  
の島なり仲より浦珠と奥は  
行をさす二珠と平付と

赤弓園 門同実

いかにある檀れ園と一りまで長門  
路よはくましくつづく皇台長門  
後海つ東海流とよゆや門目今  
を前く一里れ海と塩おもはれあり  
くやともともやめ林つ自れ地よま  
毎年十二月廿日敷まよ若新布を  
并平海産をよと社人よと書か  
園つよの府中よと文二まよと皇台  
のまよよと夜海とよの海よと  
長山とよ中よと島よとよと地よと

眺らや

旅人のらはくしの道まわく  
作れ中らよぬよとせよと  
視るものりそるのきろく  
くすく書まよとよとまよ  
まよのりそるの東国とよと

西海道 九丁園

を前園介 門目れ園中視る方名ま  
観取 旅人

高濱長濱池ありて赤坂と小倉あり也  
あまのうりや天の河原より流るらん  
早しとみせふとてた言濱  
長濱

八田と三所 東海と二里針浦人  
時女六月の語り

あまのみの鳥山麓のいづれ  
いづれやあまのいづれ

長津山行 是結為  
紫はらけあまのいづれ

高あまのいづれ 棚と 少和

鏡の山  
海を一日名もあまのいづれ  
持らるるいづれ  
いづれ

宇作文  
白白なり社檀のいづれ  
一振木山之を  
後いづれ

豊後園介

東西の海道なりいづれをいづれ

曲豊後

作ふれみささる海と七重を

非鶴

水浦を色とまわりり東よんてり

をこの沖へむらと後り

湯の嶽

府中より西へ弁花と後り

大隅國介

さしむら名取なり

風の森

ね〜る風の森を採花

ささるあ〜るなり〜り

氣多葉 夕涼〜 阿由 紅葉

〜る海〜るなり大隅乃

〜り〜る海〜るなり

日向國介

あま〜る〜る〜る〜る

〜る〜る〜る〜る〜る

〜る〜る〜る〜る〜る

はくしつしきしきあへ

薩戸國介

乞之名所とくさ

これ漆

うー垣とくまみん

奥水橋 ふう橋 さつとせ

夜弄よ歌歌小 浪の飛 貝と

こままの仲の水橋ー我ありと

新し月つまよふはこれ垣風

瓶前國介

芦屋

少く海へ東へ入海へ西へ出れねと

を契とまへありこれ漆と云いあり

の

水蓮れ遠はこれ漆

右のをかまると云ふ所とくさ

海へ葛葉とくさり又水蓮れ是の

形屋と云ふを定

内浦溪 ウラウラ

是れつゝもや 是れ小海之け溪と稱  
宗像 小ぶくも 龍の窟と稱り  
宗像山 大瀧 くらを誇り

生相原の南玉井一と稱れ 檣は  
とや小の西へ 海邊なり 東の山と東  
の文海と稱り

檣

宗像 くらりも 人るを 一を 二に 波や  
垣 下れ 月 の うゝゝゝゝ 後 非れ

代よ 夫も 友とて 人たまひて あり  
嶽と云 山一の ありて うゝゝ 浦とれ  
と多ふ くらり 勝浦と 書とあり 其所の 橋  
や 今も 小名も あり 有るれと ありて  
さゝの 某所とて 空居と 稱代よ 故  
終ふるれ 牧とて 梅浦と ありて 是も  
名ありと あり

身是溪

うゝゝゝゝ くらりも 西の 海と ありて 是の  
溪や 橋あり あり



志加納 付

あつこ山とあつこ磯と山よはくくなり  
但志加納の事一丸と為れ海中と云  
くをくくくあつこ磯や又珠の座人  
りりあつこ磯と云一丸と云  
海の中と云くくくくくくくく  
秋風り増干れ月の桂こ  
山くくくくく海に中道  
唐人の志加納と為れ船るあ  
くくくくくくくくくくくく

野古れ為

志加納り未申く  
くくく海りれあの浦浪もぬ日さ  
あつこ磯を悪ぬ日さく  
香推活

あつこく西の海と東と山と云く  
中より三里くあつこ磯り  
あつこ磯仲津と云くあつこ  
くくく海り浪もくくく  
あつこ

わいりり南西中ノ世倍ノ由ニ  
トキトキを云ニ一ノ後ナリ在ハ少  
キ一社檀ノ西向ノ一ノ此重云社  
前ノ一社前未中ノ一ノ此重云社  
或之五ノ能理ラ多クト云キ重云社  
由一里ト一白少ク云双此社之博多  
通一ハ海ノ一取ト唐師ト云云云  
社ノ隣ニ云云

生相系

西向東ハ陸水ハ海ノ一里ノ博多分中

一里人

昔一ノ生相系重云社  
志奴人モありト云云  
博一ノ一ノ生相系重云社  
多ク一ノ扇乃風云云  
産ノ社

博多より東ノ社檀西向ノ東ハ山人  
八幡子産婦ノ一ノ此重云社  
生と一社人

三蓋山

森多し大和同名之森林生湯  
といやましく巨迹しより竜門山と  
いなり大板とあり宝備山いよま  
社檀あり弊よ親世音寺と云心堂あり  
宰府云林も心堂也

あやしを我道衣と云りあ  
之蓋乃山と人しと終  
まいり多し秋のあま竜門山  
虎も音もけしりともあま  
西都人 宰府人 本丸屋 物倉山 品

とあり 之蓋の杜 宝備山 弊人  
天神れを廟社檀有るく少野  
此つ福や府中の西のくく橋守  
ると後りかやれ園とといふ人  
只ひ河守流るみれ淡乃  
いこい人よあててこく巻や  
漆川と源ん人れいては  
多しとるふしとれまらあ  
芦城山

か

と書り東くありしと云り

一里ノ野 女郎花残り

保川

左取分明 赤広の郡より  
名もはれどよくきくぬ保川  
ふす。後世に人のぬかり

幸此稿

是と左取分明 名号より當國  
みえより、伊豫少毛田名

筑後國介

一取川

少年は世俗より筑後川と云くいふ  
色幸府より言長山の祭礼  
勅使より

それより小のらせもと一取河  
海りや何れ着る海り

いす。いす。いす。いす。いす。いす。  
くやら此里

左取分明

肥前國介

肥前

川

伏賀郡北田人鉢取人少山や水  
直流多流河や白玉橋渡り  
之取也又名多水河松浦の  
この川は水多しと流るる

白河

名多水河の肥前より後書載る肥後  
同名の肥前より現在白河と云  
又西國至ノ時ノ事ハ大河と云

松浦山 翠川 岳

松浦と申振山を野多九 嶽三  
い山より水里新 土申と申ふ  
河をい河里此向は流る社も  
ぬ石と云く飛渡唐社  
る丘状と成くは丘と云  
い橋の中万十所

よりせむれ川言れ西  
秋とまつれらぬ日  
せむれ川の交り秋を  
むむむの流るる

本丸よりなり せきし 舟船をいしよき  
いしよきなるを 書海りく 作

鏡丸

相海山に東申の禁下くまの東向は海  
海く宮より十町行西より南より少  
浦へ流入する塩入れ大何二願とし  
まつ川又鏡の海り丸よりや川  
九世俗より多しといはれはち言事大  
敷山雪火 相浦 管海 一林と  
源氏物語より玉くくれし 四言書也

いあへ下給ひて 経路より 臨の云むく  
はなまのいひを つけたり 言り  
もいふたも まつり 鏡丸 外  
をいけて いらん ちん ちん ちん  
りい ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
や ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
はく ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
し 鏡丸 ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
このちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

玉為川とのり一甲より乃き京へ  
玉為川

皇太后此金銀約給ふ川へあり給  
ぬ石今よりさくはるより之所新へ  
今も孰を物ぐけ川へ茶野此村  
と云ふ也

極くやま川移あし津に津  
玉為川乃あり此より  
道の浦  
とま酒へ海人荷貝をも積りてあり

乃酒下松酒へとも外若町多降へ

肥後国分

とこ酒  
とこれあうこの也まかこ酒  
とこまか酒やなるあらん

阿蘇山 嶽

とこまか山へ白川は山より西へ流さる  
川へ作し

八代の地

為し所用名取あり水邊を以て濱り  
字出長濱

年中行事共筑後と記しあり  
名号少く尚且くくく此以調此取あり  
備りて

志波國介

凡本

呼子此松原より海と十里少く水を以  
海へ海津や是より射馬へ渡りて又

おらふ家と云ふ所なり

くま川流るるくま川と云ふ所なり

お流る家書と神の如くあり

け哥西行より家々の天の系といふ所を

國中此人と名号しは天此原

より及んて

書為

題中ゆえ同名あり

射馬國介

志波より少くみくちの海と云ふ所



一國皆入海に由りて山や入るく是  
三百八十八浦に入るく一浦に西より  
東へ入るく自水もく  
射る 峯より あり 山より  
合より

浅茅山 浦里

世傳ふありて此浦とて西より東へ  
入海ありて東のなりて  
行きた浦里あり  
是より里人の行此海より入海

の代りりゆ里に名号よりあり

黄葉山 鹿時島

身合人海島人又府中よりありて  
ありて

山陰道 今園

丹波國介

大江山

世傳ふありて山と云ふ系より未だ  
西の界と云ふありて山陰道下は

えい山と然るく京より殊ぬ里能く  
西の舞下と追合して宿をさしめしむ  
里くあましれ里と云ふ所は世に前乃  
月鏡青の存く追合より十八所一  
なり

と山とくまて乃新さるく  
も田田と西小落をりし  
るく山とふとくを麻代音か  
しく世とさる書や書ん  
とわく母波まれば母後よりく  
る世

当山名可多事れは酒く用  
と略く

千年山松若縁れちけく山  
まゆより若縁とさるり子年山  
あや君代のもあしるん  
栞山花咲ありふむありく  
猿りくもえと南り  
村雲山 川 里 月 秋のあ  
秋のあまよりたさく晴やそ  
村村雲れ屋まのる月

村雲の里にさあぐりて  
こころとむよわく袖の那

雲田村 稲 白菊 漬り

生野 奥 里

あふり十字の里に大石山より成るよ  
あふりこもり十里計の毛花漬り

言ぬそ急な生野に道あり  
まのく毛毛の漬えさるる  
里をこし生野に末よこ後六  
あふりこもりとまれば小山田

あふり成るよ百の行くと丹後と  
謝の池

### 丹後國介

と謝海 入海 浦 溪 磯 漆 小島  
内外溪 吹井 海人 孫持山 大山  
あふり生野にまれば人今成り人  
あふり生野に袖のせも  
あふり海の口よりまれば酒を  
あふりこもりとまれば

ちを従ふ所なりと云 稽古  
まつるゝこれにせらるる  
天徳

此の世の世にありては  
戸とていふは厚たのそと  
の府との中より一  
字にあらはれし海に  
入海と云はれし  
又海にあらはれし

向く毎月十六日の夜  
多分く海にありし  
寺有具伴より  
堂此の備まつる  
く正の月の十六  
一灯なるなり  
此堂の前より  
一の枝よと  
弘く先くみ

波号海如天 晨橋立

惠波系人巾みせくやまに葉を

下紅葉丁海天に橋立て

成相

府中北西一里山を此之所に観

音く壘を東向なり山寺之府中

より一里館くよまに海を東よて

眺る音双乃地なり

枕鳴 板木鳴

の聲鳴くくくくくくくく

水白 く鳴、行一町之芦鴨なと

傍り

浦鳴 古事

ふ及はく

為鳴をの音波をく行響貝

あまれくこのまじくくくく

現に六舟波の大小山北西の山田

よ新歌事い

音くくくくくくくくくく

人のあひをくくくくくく

尚玉乃東山ノ若狭ノ地多ク  
小川海自丹後ノ

但馬國介

丹後ノ末中ノあつたつり丹波ノ西ノ  
こゝ多分名取あり

朝来山

在但馬ノ月可尋

二見海

伊根ノ同名あり

夕月兼ふあり。ある方々玉邊  
二見ノ浦をめぐりてあり  
雪此白溪

流哥川 互取ふ介明

但馬を介言此白溪よりせん  
あつたつりあつたつり  
大所此里

但馬を介言此里のつり  
あつたつりあつたつり

因幡國介

但馬此も人名取る事ありと名号  
よみえあり

因幡山

美濃國に同名の山あり現在福原  
此里と云ふに遠保百首に因幡  
山といふ事あり

因幡山雪は雲風 空の音あり

村雲白く 柳家春九月

伯耆國介

名家ゆり換見と云名取る事あり  
此山

小雲國介

柳家文 河森 水江 吉井文 若  
野河と云ふ事あり

八雲平の柳雲れりりりりりりり

若井川乃長と云ふ事あり

平乃國 冥山 隈関 佐々浦を

名取多し

さりとて名取多し

石見國よも秋の海と

石見國介

石見海濱

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に  
石見の海濱に

石見國介

石見海濱 小浜

石見



浪乃よりみね河小流此溪楸  
ろくしき波ぬ君よあし  
け奇し海前の小流此也

善後園介

東より少く小流云云雨と十八里也  
靴馬山又の麓より水が坂小野と  
云和と善後主人

後瀬山 浦あり

今朝の乃と流と云々これ阿毎の家

後瀬乃山此界此云々

やと物くさるもそ浦より後流の

後世此山乃峯此根葉

雲晴ふ後世此山の橋とれ

りしよりよまこれとやい

善羽山 水鳥 松 手橋 花

あしと流り

あしと流り善羽此山と鉢と月

阿毎とあつと文とより

善羽とれ善羽此山と鉢と月

霧のうらや〜紅葉〜小巻り  
ま〜ちふ花れ指と縁ま〜  
喜羽の山れ音乃び〜  
三形海 浦 淡 糸  
その川〜水よ〜海をすれ〜  
月い〜海を〜  
垂〜く〜糸と〜  
ま〜物と乃花ハ咲屋と

越前國介

若狭より東へ小巻の何處も小巻海に

有乳山 翠 高根

を〜よ〜山と〜り〜海の宿〜  
乳山一里〜山〜糸〜り〜世〜  
あり

有乳山曇れ〜山〜  
〜山〜山と〜り〜  
有乳山夕日〜山〜  
多行ぬ〜や 虫の鳴〜

越前

有乳山雲此風 先平そそ  
雲此行て下落 子紅葉し

矢田野 廣地 大社

有乳山此少下居此口と云宿此少れ  
より少一里社行くと矢野社之行り  
此津くあまは西へ

其昔系多ひく秋風吹くく

矢野此大社の荻藪

阿波津の里

西宮のく河也く同右の左所

有乳山雲字此字く成む道

あまのの里く雲少りは

龍麻山 浦 淡るく

有乳山の少や居れ口より一里く居れ

より真の字つ行くと越前此府へ行くと  
はあふ少行くと世倍くはあふはと

多く高津く氣比此の社は社は

社檀西向く山く東く在

様らはあふの山とく越前

河一八今そ鳴なは

しらぬのこゝろの海もつれ海もつれ  
ゆふれらゝのこゝろの海もつれ

飼飯海 浦

羽津まゝしきははは家こゝろの  
の左のいゝ

まゝの海もつれあゝの岸れ  
みゆれらゝのこゝろの海もつれ

然乃中山

有乳山より廿宮よふれ作しと大  
山と越なく越前府のあゝのこゝろ

中山と云ふ東へ行く海もつれあり

ふれ目津れははは山と

ふれ目津れははは山と

越の中 山 麓を越え

海 海山

遠保百首よふ帰の字くけ山と東西

へまゝし海道のあゝの海もつれ

都人海山海よふれをこゝろ

さゝもまゝしぬ秋の夕音

ふれ目津れははは山と

廣七筆にありあのふ  
八播坂

澤山の近邊人

志道多ん世よえあしらね海山  
りいこ人ぶあらん

園系

并流木よ同名を

常れなぶつ家いあし  
行毛やせぬ園の

清水橋

馬戸橋

細い女用く名所く母倍いあし  
作と云取人

あさじい乃橋いあし

いりいこあし

いりいその好えて園いあし

馬戸橋いあし

水石

あしい海いあし

あしと云流いあし

同名を

夏より此草のり移るあらしあり  
あけの月乃あまののそ  
秋よりあけの奥のたけ  
人のりくよ月とあかん

加賀國介

道の海

越前のはるかやまの宿より二里餘  
己のりか賀乃越へ道は海へ合  
く少なり白人をたふ入るなりとて

乃招とてけあらし此海邊よりあま  
は越前へ越名あり  
はるかやま身あらしふ屋とてよ  
道は海をりてさたて  
行浦

海は但今この海よあて治るよ  
海の色は道は浦よりあまなり  
とて宿は是よりさしあし行此  
海をりてつる

善く國行は海風吹き

海さうふあそふ秋れ一乃  
越の海北行の海とこそそふれ  
一水とさうく言そ海さう

小塩浦

左のふ合羽けあそり  
思ひこやと一ほれ海れさ海やえ  
秋の月とらん

藤原

八雲物とる陰と又と又道心と因右  
ありあそれ海とさ花とれと世信

由志れ京の他とてさうく措れ宿り  
二里館りあそれ海と藤原  
く里館り

衣平と夕風を一藤原や  
時句一誓へ一宿さうく  
世れ中一とさうと命一と行と藤原  
移り一あれと妹さうと  
高橋

左のふ合羽あそり  
秋も小流もさう海さう





物言もあはれしむるのよし  
そととていふにぬ越乃白ゆ  
あつしれつやと云ハあまの地言  
乃時さあをきく其年た言乃  
海とを知人言をきく年の下  
と云事一と

熊登園介

徳也の海 鴻山

徳登れ海の約と海あまのつたあ

光ふあまの月行そり  
流より今日とふつとさあたく  
あまの海とよのこれ海山  
饒石川 紅葉 三つをなと流り  
紅葉あ山下水きそあまを乃  
あまの川とそりて流り多  
岩瀬流  
あまの川とそりて流り多  
あまの川とそりて流り多

越中園介

越中

か賀より東へ玉城や能登の少  
二上山 花菖 月 町ありと續り  
むく玉の杖や文のくくく一  
二より一ヶ月の月を想  
二上山のあとも道家 郭一  
今も啼わぬ君よ三を  
浪岩 海 磯 丁の山二に内  
浪岩の磯乃ありとよ号丁海  
浪岩のくくくくくく  
岩のくくくくくくくく文

すもりの山々 秋風を吹

くく野

二とくわくわく 糸あきら 屋こ

おのきつり

おしけをあらうまはくくわ  
りありとくくく鴨れ 草く  
有磯 海 浪 後 芦田 磯 菖

千鳥 空世貝

ういふ名のあるその浪のき  
まきくくくくくく

波越形ありて此高き岩根みこそ  
あてて根れ露そこふあり

多胡浦 海 入江 古江村 菖根松

時あまると後り

子苗お田子れ海人夜ふけ事

昔代あり入江とくあり

八月あは古江村の岩やこ

水ここのお田子れ浦浪

いこりふありひてうお田子れ海

嘆か菖根一乗る多あり

菅れ山付 本れ葉の里

まへは日影もるこ菅れ山

こらくもあぬ飛れ文部

色海ふ本れ葉の 里乃 唐錦

あらくれまをすの山風

散海ふ本れくの里をま利也

さそはゆと秋もゆらむ

磯波山 園ま

機くはうと云字は月く岩中用

妹の家ーくもれゆらまひさる人

こゝろに園をなすも然るも  
越後もこのり川程に成り  
こゝろに園に名農場  
こゝろに地をすて水玉に人言中  
ゆきあへく川くちりこゝろに  
争ふもよみくも

卯花山

較彼に里こゝろに山に人時多  
あつて後り

日影す卯花山にみくも

ゆれぬえりけく鉢さう  
時鳥卯花山にあり  
そゝろに山に思ふた  
屋ふるに里に宿るも  
こゝろにけんと妹中  
葉共海浦に

津の玉と同名を後り

るあゝの海にゆれも  
あんとそろに今そ  
越の海にあり風吹るに

船をよそへし波抱き舟

越山 系法乃古交 言詠

き波乃玉もを名寄り廿五圍

のあや

越乃山麓より小藤に露あり

入初よりわろく神れ

越後國分

可換見と名寄りし人より名

所有明乃事と云ふ

依後國分

越の湖 布巻海

根をよそへし何せんとんありその

越の湖よりわろく神れ

言ひ言候

浮はるる言ひ言候と云くと

本陰をみくぬ越の浦風

越の書原

頃風よそへしやいじん枝を葉

と心よそへし越乃書原

越後

越の菅束

ま〜ま〜越の菅束枯果〜  
りゆもあ〜ぬ びりりま〜る

言角不書哉ハ一見きふ所國を  
如此や







